二重目　南北十六間二尺八寸
東西十三間六尺三寸
但窓三十六箇所
三重目　南北十三間二尺五寸
東西十一間一尺五寸
但窓二十八箇所
四重目　南北十間五尺
東西八間四尺
但窓十二箇所
五重目　南北八間四尺
東西六間三尺
但窓二十八箇所
鴟吻　高壹丈程横六尺五寸程此尺坪三百五拾六坪程
下棟隅棟　貳百八十六坪
屋根坪　千六拾九坪程

初重二十四疊忍七百十四疊誤

穴藏深　壹丈三尺
初重板敷ヨリ二重目二階迄　四間四尺程
二重目二階板ヨリ三重目二階板迄　四間二尺程
三重目二階板ヨリ四重目二階板迄　四間程
四重目二階板ヨリ五重目二階板迄　三間二尺七寸程
五重目二階板ヨリ桁上天井迄　二間二尺程
總高地形ヨリ箱棟上迄　二十八間五尺程
初重二十四疊　二重目四百八十二疊　三重目三百六十七疊　四重目二百十六疊　五重目百二十一疊　總合千九百疊
穴藏之内　百三拾五坪壹合
初重　三百三拾六坪壹合八夕
二重目　二百二十五坪壹合九夕
三重目　百五十坪二合五夕
四重目　九十二坪七合五夕
五重目　五十五坪六合貳夕

總合九百九拾五坪壹合壹夕

右正德二年壬辰正月十三日御沙汰に付取調大久保隱岐守殿に小普請奉行竹田丹波守ヨリ進達書付ノ内ニ見ユ

江戸人口小記

◎戊辰の變大ゴ都下の人口を減じ其際や兵馬の間何人ゥ能く其分散の數を盡さん余目算して考ふるものゴり其數大抵左のごと一

德川氏の臣僕故國を逐れ駿遠ゴ到マ一もの戸數大凡壹万四千家一家五口と算すもハ七万人列藩の邸内ゴ居住せ一もの其國ゴ就く惣員知るゑゥらじとい一とも大抵貳万家と爲せゑ拾万口都下の商民横濱ゴ移り一者五六千家人口凡二三万人是ゑ實際ゴ當マて目算せ一處なり

享保ヨリ天保迄子午改
江戸府内人別書拔

御府内人別

享保六丑年改　諸國人數調の初年）
一五拾万千三百九拾四人

同十一午年改
一四拾七万千九百八拾八人

同十七子年改
一五拾三万三千五百拾八人

元文三午年改
一四拾五万三千五百九拾四人

延享元子年改
一四拾六万百六拾四人

寛延三午年改
一五拾万九千七百八人

寶暦六子年改
一五拾万五千八百五拾八人

同十二午年改
一五拾万千八百八拾人
明和五子年改
一五拾万八千四百六拾七人
安永三午年改
一四拾八万貳千七百四拾七人
同九子年改
一四拾八万九千七百八拾七人
天明六午年改
一四拾五万七千八拾三人
寛政四子年改
一四拾八万千六百六拾九人
同十午年改
一四拾九万貳千四百四拾九人
文化元子年改

一四拾九万貳千五拾三人
同七午年改
一四拾九万七千八拾五人
同十三子年改
一五拾万千百六拾壹人
文政五午年改
一五拾貳万七百九拾三人
同十一子年改
一五拾貳万七千貳百九拾三人
天保五午年改
一五拾貳万貳千七百五拾四人

右ゝ

御城下豐島荏原葛飾三郡町奉行支配場町人寺社門前町ゝ共地借店借召仕當歳迄之人數尤他支配之町人能役者幷町宅よても武家ゝ來之分ゝ右員數之外に候事

正德ヨリ弘化迄
江戸町數人口戸數

江戸町數人口戸數

正德三年癸巳改
一江戸町九百三拾三
内六百七拾四町奉行支配
貳百五拾九御代官支配
享保七年壬寅三月改
一町數千六百七拾貳町
一家數拾貳万八千五百七拾五軒
一人數五拾貳万六千貳百拾壹人
内男貳拾貳万五千七百人
女三拾万五百拾一人
外に
沙門三万六千九拾六人

修驗者六千拾五人
社人九百三人
盲人千人
享保八年癸卯五月改
一町數千六百七拾貳丁
一戸數拾貳万八千五百五拾五軒
一人口五拾貳万六千三百拾七人
内男三拾万五百拾人
女貳拾貳万五千八百七人
享保九年甲辰七月改
一町數千六百七拾貳丁
一人數五拾三万七千五百三拾壹人
外ニ
沙門貳万三百九拾人
修驗者四千貳百七拾五人
比丘尼五千八百三拾六人

社人九百三人

大神樂荒神拂神子共　六千七百貳拾三人

新吉原八千六百七拾九人

内男貳千九百拾八人
女千八百五拾四人

遊女小女共三千九百七人

享保十年乙巳九月改

一町數千六百七拾貳町

一戸數欠

一人口五拾三万七千五百三拾壹人

内男三拾貳万貳千四百貳拾三人
女貳拾壹万五千百八人

享保十一年丙午改

一人口四拾七万千九百八拾八人

享保十六辛亥年江戸人數改

一町數千六百七拾貳町

但表通り家持拾貳万八千六百軒

一人別五拾貳万五千七百人

内男三拾万五百拾人
女貳拾貳万五千百九拾人

外ニ

出家貳万六千五人

山伏三千七拾五人

禰宜九百人

新吉原町

内男貳千九百六拾貳人
女八千九百九拾八人

享保十七年壬子改

一人口五拾三万三千五百拾八人

元文二年丁巳江戸町人別改

一町數千六百七拾貳町

但表通家持拾貳万八千五百七拾軒

一人別五拾貳万六千貳百拾貳人

内男三拾万五百拾貳人
女貳拾貳万五千七百人

外

出家三万六百九拾五人

山伏六百七拾五人

禰宜九百三人

盲人千拾人

元文三年戊午改

一人口四拾五万三千五百九拾四人

寛保三年癸亥改　（寛延奇談に同し）

一町數千六百拾八町　（同前斷）

一家數拾貳万八千五百七拾五軒　（前同斷）

一人數五拾壹万五千百貳拾貳人　（寛延奇談二人を壹人トス）

内男三拾万拾三人
女貳拾壹万五千百九人　（同三人ヲ二人トス）

外ニ

沙門三万六千六百九拾五人　（以下寛延奇談脱せり）

修驗四千貳百七拾七人

尼五千八百三拾壹人

大神樂以下六千七百貳拾三人

盲人千貳百八拾九人

新吉原八千六百七拾九人

延享元年甲子改

一人口四拾六万百六拾四人

延享三年丙寅四月改

一人口五拾四万四千貳百七拾九人

一本ニ江戸町奉行支配場地借店借召仕共五拾四万四千貳百七拾七人に作る

寛延三年庚午十二月改

一人口五拾万九千七百八人

寶暦六年丙子改

一人口五拾万五千八百五拾八人

寶暦十二年壬午改

一人口五拾万五千八百五拾八人

明和五年戊午改

一人口五拾万八千四百六拾七人

安永三年甲午改

一人口四拾八万貳千七百四拾七人

安永九年庚子改

一人口四拾八万九千七百八拾七人

天明六年丙午改

一人口四拾五万七千八拾三人

寛政三年辛亥改

一町數千六百七拾八町

一人口五拾三万五千七百拾人

寛政四年壬子改

一人口四拾八万千六百六拾九人

寛政十年戊午改

一人口四拾九万貳千四百四拾九人

内男貳拾八万三千百六拾三人
女貳拾万九千貳百八拾六人

文化元年甲子改

一人口四拾九万貳千五拾三人

文化七年庚午改

一人口四拾九万七千八拾五人

文化十三年丙子改

一人口五拾万千百六拾壹人

文政五年壬午改

一人口五拾貳万七百九拾三人

文政十一年戊子改

一人口五拾貳万七千貳百九拾三人

天保三年壬辰五月改

一人口五拾四万五千六百貳拾三人

内男貳拾九万七千五百三拾六人
女貳拾四万八千八拾七人

天保五年甲午改
一人口五拾貳万貳千七百五拾四人
天保十二年辛丑五月改
一人口五拾六万三千六百八拾九人
内 男三拾万六千四百五拾壹人
女貳拾五万七千貳百三拾八人
天保十三年壬寅改
一組〻番外共惣町數千六百七拾五町
天保十四年癸卯改
一町數千七百拾九町
弘化二年乙巳五月改
一人口五拾五万七千六百九拾八人
内 男貳拾九万三千三百九拾壹人
女貳拾六万四千三百七人

（附言右江戸町數戸數人口享保十六年及ひ元文二年のものハ勘定所より得あり其餘ハ好事家の記錄より取りさり併せて年次を以て之を列記せ故ふ書式一おらに精粗同〜の

らに〜といへとも享保以來調査の大要ハ左のごと〜
一町奉行支配場の町人寺社門前町〻共地主地借店借召仕當歳迄の人數を擧けある事
一他支配の町人を除きある事
一能役者を除きさる事
一武家及ひ武家〻來を除きさる事
一僧尼修驗者社人盲人巫祝の類及ひ新吉原遊廓を員外ゑ置ある事
右數條ゑ注意〜首尾通覽せと概略を察するゑ足らん）

◎海運の事昔川村瑞軒ゑ命〜て其事業整頓す大坂幷諸國より年〻都下ゑ入る諸物品夥多
あり今享保年間其海船の數と物品の大數を調査せ〜もの有ゑ左記のごとし
江戸入津海船及物品
享保十一年諸國より江戸に入津せ〜船數合せて七千四百貳拾四艘此内武家荷物問屋
ゑ預うらさるものと其員數知るべうらに
米八拾六万千八百九拾三俵

味噌貳千八百貳拾八樽
酒七拾九万五千八百五拾六樽
薪千八百貳拾万九千六百八拾七束
炭八拾万九千七百九拾俵
水油九万八百拾壹樽
魚油五万五百壹樽
醬油拾三万貳千八百貳拾九樽
木綿三万六千百三拾五箇　一箇百端入
鹽百六拾七万八百八拾俵
錢壹万九千四百七箇　一箇拾五貫文入
船間屋といふ者此頃百六拾三軒也
此員數ゝ町奉行ゟ書き上る例年之記中よりあり年ゝ別而諸式入津之員減少おり〳〵といふ

寛政以來天保三辰年迄江戸府内町人共之内
株式相定上納金致シ候者共名前并金高取調書
天保三辰年三月十二日町奉行榊原主計頭より差越
株式相定上金致候者共名前

金五百兩　水油問屋惣仲間
本船町庄兵衛店
進明屋
作兵衛
外拾七人

金三百兩　疊表問屋惣仲間
南新堀壹丁目九兵衛店
清水屋
茂兵衛
外三拾七人

繰綿問屋惣仲間
本船町八郎右衛門店

金千兩　森田屋儀助外六拾七人

金貳百兩　下り糠問屋惣仲間　南新堀壹丁目喜兵衛店　江坂屋重兵衛外九人

金四百兩　藥種問屋惣仲間　本町三丁目五兵衛店　岸部屋安兵衛外四拾九人

金三百兩　廻船問屋　西河岸町彌兵衛店　利倉屋彦三郎外貳人

〆金貳千七百兩

右ゝ御國恩冥加を存上金致度旨申立候付文化六巳年二月備前守殿ゟ先役小田切土佐守より申上同三月伺之通被仰渡候

金千兩　木綿問屋惣仲間　大傳馬町一丁目新左衛門店　伊勢屋次郎左衛門外四拾三人

金貳百兩　瀬戸物問屋惣仲間　新兩替町四丁目利右衛門店　今利屋五郎兵衛外三拾五人

金四百兩　釘鐵銅物問屋惣仲間　品川町裏河岸新右衛門店　釘屋喜助

金百兩　外六拾四人　打物問屋惣仲間

金百兩　通鹽町彦兵衛店　大坂屋　惣兵衛　外拾五人　線香問屋惣仲間

金百兩　伊勢町文左衛門店　熊野屋　十兵衛　外五拾八人　繪具染草問屋惣仲間

通旅籠町次助店　村田屋　十兵衛　外七拾二人　紙問屋惣仲間

金三百兩　本町四丁目政兵衛店　小森屋　次郎兵衛　外四拾六人　蠟問屋惣仲間

金百兩　通油町源左衛門店　駿河屋　助右衛門　外十九人　錫鉛問屋惣仲間

金五拾兩　小傳馬町三丁目次右衛門店　銅屋　十郎兵衛　外七人　船具問屋惣仲間

金三拾兩　南新堀二丁目與八店　白子屋　勘兵衛

金貳百兩

金百兩

金百兩

外七人

藍玉問屋惣仲間

深川佐賀町彌七店

宮本屋 安兵衛

外三拾七人

雪踏問屋惣仲間

堀江町三丁目安兵衛店

伊勢屋 與兵衛

外三拾六人

鰹節鹽干魚問屋惣仲間

小船町二丁目八兵衛店

住吉屋 伊兵衛

外三拾六人

定飛脚問屋

万町又七店

金五拾兩

〆金貳千八百三拾兩

右ゝ御國恩冥加を存致上金度旨申立候付同年四月備前守殿ゟ先役小田切土佐守より申上同月伺之通被仰渡候

大坂屋 茂兵衛

金百兩

金貳百兩

眞綿問屋惣仲間

本町三丁目多助店

富山屋 九右衛門

外三拾貳人

干鰯魚〆粕魚油問屋惣仲間

南茅場町利左衛門店

橘本屋 小四郎

外十四人

金五拾兩

江州城州茶問屋惣仲間
通貳丁目與左衛門店
山本屋
嘉　兵　衛
外二拾九人

金五拾兩

古手問屋惣仲間
元濱町平兵衛店
松坂屋
佐　吉
外拾壹人

金三拾五兩

下り蠟燭問屋惣仲間
万町源助店
遠州屋
半　兵　衛
外二十四人

竹皮問屋惣仲間
伊勢町文左衛門店

金貳拾五兩

酒井屋
忠　兵　衛
外拾人

金貳拾兩

草履問屋惣仲間
堀江町四丁目半兵衛店
大坂屋
文　六
外九人

金貳拾兩

奥州筋船積問屋惣仲間
堀江町四丁目嘉兵衛店
奥岡屋
庄　兵　衛
外三拾四人

金三拾五兩

色油問屋仲間
本石町三丁目家持
大坂屋
孫　八
外貳人

金三百三拾兩

金貳拾兩

金六拾兩

通町組之內小間物諸色問屋惣仲間

本石町二丁目平兵衛店
唐木屋
七　兵　衛
外百六拾八人

人參三臟圓賣藥渡世

本町四丁目家持
酢屋
平　兵　衛

塗物問屋惣仲間

室町壹丁目家主
伊勢屋
利　助
外貳拾五人

菅笠問屋惣仲間

堀留町壹丁目新兵衛店

金拾兩

金百兩

金五拾兩

金千五百兩

清水屋
八　兵　衛
外八人

廻船下り鹽問屋惣仲間

北新堀町平兵衛店
渡邊屋
熊　次　郎
外貳拾四人

糸問屋惣仲間

通貳丁目忠藏店
山形屋
儀　兵　衛
外貳拾人

下り酒問屋惣仲間

堀留町二丁目甚兵衛店
溜屋
久　兵　衛
外三拾七人

金拾五兩

〆貳千六百貳拾兩

右ゝ御國恩冥加を存上金致度旨申立候ニ付文化六巳年五月備前守殿ゟ先役小田切土佐守より申上同六月伺之通被　仰渡候

金五拾兩　雪駄問屋ニ而大阪足袋商人
旅宿九人ニ而
鐵炮町權右衛門店
伊兵衛
外九人

金七拾兩　生布海苔苧屑苔問屋
南新堀壹丁目九兵衛店
清水屋
茂兵衛
外三拾六人

金三百兩　蕨縄問屋惣仲間

金三拾兩　南新堀壹丁目勘四郎店
白子屋
三郎兵衛
外三十九人

金百五拾兩　多葉粉問屋惣仲間
堀留町壹丁目善助店
淡屋
仁左衛門
外四十人

下り素麺問屋惣仲間
靈岸島四日市町吉右衛門店
松浦屋
勘次郎
外十三人

鍋釜問屋惣仲間
品川町裏河岸新右衛門店
釘屋
喜助

金百五拾兩

外三拾五人

下り傘問屋惣仲間

伊勢町多七店

森田屋

彌　兵　衛

外百拾貳人

金百五拾兩

水油仲買惣仲間

本船町勘兵衛店

大池屋

彌　兵　衛

外八拾四人

金百五拾兩

麻苧問屋惣仲間

本船町甚三郎店

森田屋

喜　兵　衛

外六拾九人

醬油酢問屋惣仲間

金三百兩

南新堀二丁目喜兵衛店

伊坂屋

重　兵　衛

外八十四人

金五百兩

吳服問屋惣仲間

櫻田久保町甚兵衛店

槌屋

幸　助

外五十四人

金七拾兩

明樽問屋惣仲間

本材木町三丁目茂左衛門店

川口屋

安　兵　衛

外五十四人

金拾兩

丸藤問屋惣仲間

本町三丁目太助店

近江屋

嘉　七

金貳拾兩　外貳拾人

綿打道具問屋惣仲間

小船町三丁目四郎右衛門店
森田屋
與右衛門

外四十六人

茶問屋惣仲間

本町四丁目半右衛門店
西村屋
喜三郎

外拾九人

金百兩

〆貳千五拾兩

右御國恩冥加を存上金致度旨申立候に付文化七年十二月備前守殿に先役小田切土佐守より申上同月伺之通被仰渡候

右之通追〻伺濟に而一ヶ年壹万貳百兩ッ、同月上納致以來年〻上納致來候處仲間規定之ゑめ株札相願候に付文化九申年十一月備前守殿に先役永田備後守より相伺翌酉年三月伺之通被仰渡候

金百兩

鹽干肴問屋

元四日市町佐次兵衛店
金屋
善兵衛

外三拾五人

右株式取締爲冥加上金之義申立候付文政十一子年五月出羽守殿に筒井伊賀守より相伺同六月伺之通被仰渡一ヶ年金百兩ッ、同年十二月より上金致來候

銀三拾枚

本船町新兵衛店
活鯛屋
長十郎

外一人

右も御用活鯛相勤候に付大阪表に而同所北堀江町壹丁目之内四十間之内九間に限右地所之儀も相對を以借請賣場取建右捌所に而刎魚上鯛御用之御品撰立相州浦賀外一ヶ所に活鯛相廻候に付冥加之義申立文政十三寅年八月出羽守殿に筒井伊賀守より中上候上右場所之者共

ゟ一ヶ年限銀三拾枚ッ、大阪町奉行所ゟ上納致候

三田三町目家持
堤彌三郎悴
三郎兵衛

金拾貳兩

右之者儀藥種其外細工物等ニ相用候唐之土於御當地此ゟの壹人釜元御免ニ相成候ハヽ爲冥加一ヶ年金拾貳兩宛上金之儀申立候間天保元寅年十二月出羽守殿ゟ拙者より相伺候處翌卯年四月伺之通被仰渡候ニ付同年より上納致候

右者寛政以來御府内町人共之内株式相定上納金致候ゟの取調候處書面之通御座候

辰三月

神原主計頭

總合 金壹萬三百拾貳兩 銀三拾枚

町方自身番屋木戸番屋建坪等之儀文政十二丑年中町奉行所ニ而申渡有之定左之通

自身番屋

梁間九尺　軒高壹丈三尺
桁行貳間半
但出巾三尺柱建庇取付

町内木戸番屋

梁間六尺　軒高壹丈
桁行九尺
但出巾三尺之椀木持釣庇取付

天保十四卯年三月廿八日水野越前守殿御渡

諸國人別改之義此度被仰出候ニ付而ゝ自今以後在方之者身上相仕舞江戸人別ニ入候儀決而不相成候間領分知行所役場等ニ罷在候家來ゟ精々勸農之儀申諭成丈人別不減樣取計

且職方ニ付當分出稼之ものハ奉公稼ニ致出府候者共ゝ村役人共連印之願書爲差出右願之趣承屆候旨右役場ニ相詰候家來奥書印形致〻相渡小高之分知行所ニ家來不差置遠國ニ而當地へ願等手重之向ゝ割元役之者奥書致印形候積其外出家致〻候者之儀ゝ無由緒者雖有弟子之由猥ニ不可令出家若無據子細於有之ゝ其所之領主代官へ相斷可任其意旨寛文五年諸家ゝ御條目を以被仰渡候處近年糺方等閑之向も有之哉ニ相聞候間以來ゝ出家相願候者ハ人柄幷子細等領主地頭ニ而篤と吟味之上寺社奉行ゝ申斷聞置之挨拶有之上ニ而可差免幷廻國修行六拾六部順禮等ニ罷出候者も前書出稼之者同樣ニ取斗尤出家願等仕來ニ而添簡等致〻候向ハ其通可致諸藩中無據子細ニ而出家致〻候分ゝ是又寺社奉行ゝ可相斷且吉田白川陰陽師神事舞太夫等より許狀申請候者共も其度々添簡又ゝ前同樣願書へ奥書致〻可相渡候事

一近年御府内ゝ入込妻子等も無之裏店借請候もの之内ニハ一期住同樣之者も可有之左樣之類ゝ呼戻在方人別不相減之樣取計可申候事

右之趣在所ニ罷在候家來ゝ精々可被申付候

三月

右之通可被相觸候

天保十四卯年三月廿八日水野越前守殿御渡

在方之者當地ゝ出居馴候ニ隨ひ故郷ゝ立戻候儀不致其儘人別ニ加り候もの追年相增在方人別相減候趣相聞不可然義ニ付今般悉相改不殘歸郷被　仰付候處商賣等相始妻子等持候者一般ニ差戻ニ相成候而ハ可致難儀筋ニ付格別之以

御仁惠是迄年來人別ニ加り居候分ゝ歸郷之御沙汰ニ不被及以後取締方左之通被　仰出候

一在方之者身上相仕舞江戸人別ニ入候儀自今已後決而不相成大工左官木挽柚其外職分ニ付當分出稼之爲め致出府同居又ゝ店借或ゝ奉公稼ニ出候者ゝ月限年限等ニゝ村役人ゝ申立御代官領主地頭へ願出候ハゝ村役人連印御代官所ゝ手代私領ゝ家來奥書印形之免許狀相渡遣候間出府之上家主或ハ主人ゝ差出且何方ニ同居幷奉公濟致〻候旨村方ゝ通達ニ及ひ期月年限ニ至り候ハゝ一旦村方ゝ立歸何ヶ度出府候とも右同樣之手續相心得可申事

但在方ゟ人別入手重ニ相成候由を申唱職人ゝ賃銀を增奉公人ハ給金せり上候義等決而致間敷候以來男奉公人之分ゝ武家方中間町方下男共金貳兩貳分より三兩迄女ハ壹兩貳

分々貳兩を限り年若幼若之者ハ其限ニ無之候間何程も給金引下ヶ奉公濟可致候若相背主人方相對之上給金增之取極致すゝ於てハ吟味之上急度咎可申付候

一迴國修行六部順禮等ニ罷出候者是迄ゝ村役人共或ハ菩提所寺院ゝ相對之上往來手形請取候由之處以來ゝ村役人共々御代官領主地頭ゝ願出前條之通許狀相渡可申事

一出家致〳〵候者共之儀已來無遺失所役人より御代官領主地頭ゝ相願聞濟之上添簡又ハ奥書可申請且吉田白川家陰陽師神事舞太夫より新規門下ニ相成又ゝ百姓町人ニ而身分相應之許狀請候者ゝ勿論縱令前々々配下ニ而神道葬祭或ハ繼目許狀請候節も其度々支配領主等〳〵相願添簡又ハ奥書其筋々許狀可申請候事

一在方人別改方等閑之趣相聞向後死亡出生嫁娶出稼奉公稼之者共巨細ニ相改番人印形取之印判改候ハヽ其段相斷書致置職分ニ付出稼奉公稼之もの期月期年ニ不立戻候ハヽ其段御代官領主地頭ゝ訴出可申事

一近年御府内ゝ入込裏店等借受居候者之内ニハ妻子等も無之一期住同樣之ものも可有之右樣之類ゝ早々村方ゝ呼戻可申事

右之趣村役人共厚相心得勸農之趣意深切ニ申諭村方人別相減不申候樣精々心付可申候若人別改方等閑ニ取計致すゝ於てハ村役人共役義取放之上急度曲事可申付もの也

右之通可被相觸候

三月

天保十四卯年十二月廿一日大炊頭殿御渡

大目付
御目付ゝ

此度札差共貸金無利足年賦濟ニ被　仰出候處猶又於猿屋町會所寛政度之振合ニ準〳〵御下ヶ金被成下新規拜借可被　仰付候間御藏米取之面〻用辨向是迄之通無差支樣可致候萬一右之趣を心取違致〳〵双方共不法之對談ニおよゝ候ハヽ急度可有御沙汰旨札差共ゝ申渡候事

右之趣万石以下之向〻ゝ寄々可被相觸候尤西丸御目付ゝも可有通達候

十二月

町奉行ゝ

此度札差共貸金無利足年賦濟被　仰出候處猶又於猿屋町會所寛政度之振合ニ準〳〵御下ヶ金被成下年五分之利足を以新規拜借可被　仰付候然る上ゝ御藏米取之面々用辨向是迄之通無

差支樣可致候万一右之趣心取違致〜双方共不法之及對談候ハヽ急度可有御沙汰旨札差共ゟ
可被申渡候

十二月

戸川播磨守
榊原主計頭ゟ
佐々木循輔

同文言

右之通町奉行ゟ申渡候間可被得其意候

吹塵錄第三十四册目錄

各地方之部二

江戸下

一寶貨糴災小記
一江戸火災記
一江戸窮民救恤例
一安政二年十月江戸大地震破窓記 城東山人記
京大坂名古屋
一京大坂名古屋町數人口戸數等
長崎
一長崎明細記

寶貨罹災小記

◎貨幣の形定まりしより已來時々改鑄之擧起て舊新交換の際舊貨の集收高十分よりて幾分を減殺し其交換に減する舊貨或ハ家々に藏貯し或ハ海外に出て消滅して再び世上に跡を不止もの其實數不可知就中消滅の大なるもの火災に逢ふて焦土となるもの尤多數なるも此災害獨り貨幣に止まらず古文書珍寶の類府下に集り高貴の家藏なるもの其庫内に燒き終に烏有となりしもの其記載あるを不見といへども推想すれとまさ可驚事ならむ歟唯是等に不止不幸にして燒死し或ハ大瘡を得て生涯不具となり是より短命を催す者又幾許そ今明曆年間の大火災より後大火災の年月度數の記をうゝく抑も府下の大災人類寶器此災に罹り消滅して跡を殘さず滅すとハ亦集り集るハまさ滅に慘毒之大災後數年を經るハ忘失すといへとも閉目して此記を見るハ孰ゝ寒心歎息せさらむ哉牧民者注目深思し僅々の小雜記とおもて放棄せるなかれと云爾

江戸火災記

一慶長十九年甲寅二月廿五日江戸大火慶長記

一元和四年戊午十二月尾張殿邸より出火櫻田愛宕下ニ至て大小名の居宅多く類焼

一同七年辛酉正月廿四日尾張殿邸より出火諸大名ノ邸宅二十四宇類焼

一寛永四年丁卯九月晦日横山町より出火至吉原男女死亡多シ

一同九年壬申十二月廿九日夜江戸大火

一寛永十八年辛巳正月廿九日子刻桶町より出火八千餘家焼亡翌晦日夜戌刻止町數九十七丁武家屋敷千九百二十四軒

一明暦三年丁酉正月十八日十九日江戸大火本郷丸山

一同四年戊戌正月十日御茶水より出火至新橋一丁目丁數二百九丁半家數四千四百廿一軒類焼

一万治三年庚子正月十四日湯島天神門前より出火至靈岸島此年正月二日より三月廿五日迄出火凡百五度と云

一同四年辛丑正月十九日廿日江戸大火

一寛文元年辛丑正月廿日巳刻元鷹匠町より出火至木挽町申刻鎮火武家五十餘軒丁數四十一町家數七百八十七軒焼亡

一同八年戊申二月朔日午刻牛込横町より出火至日本橋武家二千四百軒寺百三十六軒町數百三十二丁百姓家百七十軒類焼

一同五日辰刻四谷より出火至品川大佛赤坂青山麻布三田寺丁芝大佛

一同十年庚戌二月朔日午刻牛込榎町酒井修理大夫邸より出火至芝金杉海岸○未刻本郷御茶水より出火至日本橋

一寛文十年庚戌二月四日巳刻四谷與力町より出火至品川丑刻鎮火

一同日申刻下谷寺町より出火至永代島

一同六日午刻小日向より出火至飯田町

一延寶四年丙辰十二月廿六日江戸大火寅刻筋違橋より出火

一天和二年壬戌十一月廿八日巳刻牛込川田窪竹町より出火至芝札辻巳刻川田窪竹町より出火至四谷赤坂同刻麻布上杉彈正大弼屋敷より出火至芝札辻

一同年十二月廿八日未刻本郷追分より出火至本所三ッ口

一同三年癸亥十二月五日亥刻通鹽町壹丁目より出火

一元禄八年乙亥二月八日未刻四谷石切り傳馬町より出火至芝金杉海手寅刻鎮火万石以上八十七軒千石以上四十二軒寺三百七十三ヶ寺町三十町餘町屋六万七千四百五軒

一同年十二月廿六日數寄屋橋より出火新橋邊東西二十町南北八町餘焼

一同十一年戊寅九月六日南鍋町新橋より出火至千住掃部宿長三里餘横四十町此時東叡山御佛殿炎上

一同年十二月十日石町二丁目より出火至佃島長二里餘横二十町

一元禄十二年己卯四月四日日本橋釘店より出火至神田見付長廿七町餘横十五町

一同十五年壬午二月十一日辰刻四谷大木戸より出火至品川長二里餘横壹町申刻鎮火此時麻布御殿品川御殿炎上

一同十六年癸未十一月十八日午刻四谷北伊賀町より出火至芝札辻戌刻鎮火此時紀伊殿幷鶴姫君御守殿炎上

一同月廿九日戌刻小石川水戸殿第より出火至深川永代島八幡後此時湯島天神祠神田明神祠昌平坂大成殿筑横郭門

一寳永三年丙戌正月十四日神田連雀町より出火至濱町七十丁餘延燒

一同四年丁亥正月十五日申刻濱町新同心町ゟ出火至南本所業平塚寅刻鎮火

一同年三月　日龜井町ゟ出火至永代島

一同年八月朔日隆慶橋より出火至小石川

一同七年庚寅十二月十九日未半刻神田小柳町より出火至霊岸島長廿五町巾三四丁より至七八町翌朝辰刻鎮火

一正德元年辛卯正月四日未刻芝土器町より出火至海邊夜ニ入テ鎮火

一同月十九日和泉町より出火至霊岸島

一同年十二月十一日申刻神田連雀町より出火至霊岸島寅刻鎮火

一同二年壬辰二月八日淺草觀音裏より出火至本所四目長三里餘巾十三丁

一同三年癸巳十二月廿二日辰刻下谷池之端ゟ出火長壹里十八町巾十三町丑刻鎮火千三百餘家燒亡

一同五年乙未十二月晦日夜八ッ時大名小路より出火至芝口翌正月元日未刻鎮火

一享保元年丙申正月十一日酉刻下谷池之端より出火至霊岸島

一同月十八日午刻淺草吹分所邊より出火至本所深川

一同二年丁酉正月十三日大火桶町より出火至南八丁堀

一同月廿二日未刻小石川本郷丸山より出火至築地子刻鎮火

一享保二年丁酉十二月廿八日寅刻牛込拂方町ゟ出火至芝浦翌日夜丑刻鎮火

一同五年庚子三月廿七日午刻日本橋より出火至千住此時大猷公御靈屋炎上

一同六年辛丑二月九日

一同年三月四日

一同八年癸卯二月十六日

一同年十二月五日

一同九年甲辰正月晦日

一同十年乙巳二月十四日未刻青山久保町より出火至下谷金杉戌刻鎮火
一同年十一月十四日麻布今井谷より出火至巣鴨
一同十二年丁未十二月十日
一同十三年戊申二月十六日
一同十六年辛亥四月十五日午刻目白臺より出火至高輪虎門罹災
一同十七年壬子三月廿七日淺草新寺町より出火至深川
一同二十年乙卯　月　日溜池邊より出火至芝四國町邊
一元文三年丁巳三月四日神田明神前より出火至柳原
一同年五月三日未刻下谷八間町より出火至金杉東叡山淨圓院殿御靈屋本坊等炎上
一延享二年乙丑二月十二日千駄谷より出火至品川本宿長二里餘白銀御殿延燒俗稱六道火事
一同月廿日芝增上寺山内より出火至金杉邊横三十町長九町
一同三年丙寅二月廿九日戌刻築地より出火至千住宿長四里巾七十丁
一寶暦六年丙子十一月廿二日八代洲河岸より出火至新橋
一同廿三日辰刻青山六道辻より出火至魚籃觀音延燒二里餘子刻鎮火
一同十年庚辰二月四日丑刻赤坂今井谷より出火至品川

一同六日酉刻神田旅籠町より出火至深川洲崎此日又芝七軒町より出火廿五六町燒失
一明和元甲申二月廿日未刻神田大工町より出火至日本橋翌日辰刻鎮火
一明和七年庚寅八月十一日深川八幡より出火至柳島
一同八年辛卯正月廿二日辰刻麻布鳥居坂より出火至芝東禪寺門前
一安永元年壬辰二月廿九日午刻麻布行人坂ゟ出火至淺草同日本郷丸山より出火至千住宿長三里半巾一里十五町延燒丁數六百二十八丁
一同七年戊戌二月十二日石町三丁目より出火至深川八幡
一天明四年甲辰十二月廿六日亥刻八代洲河岸より出火至築地廿七日午刻鎮火
一同六年丙午正月廿二日午刻神田明神西より出火至深川洲崎辨才天
一寛政四年壬子七月廿一日巳刻麻布笄橋より出火至小石川御門長三里巾十二町廿二日辰刻鎮火
一同五年癸丑十月廿五日申刻本郷より出火至日本橋二十六日辰刻鎮火
一同年十一月十二日戌刻麻布藪下より出火至白金
一同六年甲寅正月十日午刻糀町五丁目より出火至芝浦
一同九年丁巳十一月廿二日下谷藤堂和泉守屋敷前より出火至深川高橋
一文化三年丙寅三月四日午刻高輪牛町より出火至淺草海禪寺家數百二十六万四千五百二十軒燒死人千二百十八五日辰刻

一同八年辛未二月十一日申刻市谷〻町より出火至芝赤羽根亥刻鎮火
一文政十二年己巳二月十六日目白臺より出火至王子村
一同年三月廿一日神田佐久間町より出火至靈岸島南北一里余東西二十町余
一天保五年甲午二月七日神田佐久間町より出火至靈岸島十日大名小路より出火至芝口二町目
一弘化二年乙巳正月廿四日青山六道辻鼠穴より出火至高輪邊
一弘化三丙午正月十五日未刻本鄕丸山より出火至佃島
一嘉永二年己酉八月廿四日子刻過辨慶橋台出火至小網町一丁目横丁
一同三年庚戌二月五日巳刻麴町四丁目より出火至金杉四丁目
一同四年辛亥　月　日午刻過四谷くらやゝ坂より出火至西念寺又新宿不殘又鹽町二丁目より至四谷御門外

◎凶歲或ハ不測の災害生せ〻時幕府其都下の窮民を救恤する事ありて其例證雜費場所等を記〻あるものあり之を左に掲く

江戸窮民救恤例

寛政四子年八月元飯田町麴町赤坂青山麻布邊町〻類燒窮民御救米錢人數

一人數四千五百九十九人
　此白米貳百貳拾四石六斗五升
　　錢四千貳百三拾壹貫六百文
右ゝ麴町平河天神社地に於て相渡

享和二戌年風邪流行に付町〻其日稼之者に御救渡方錢人數

一金壹萬九百九拾貳兩餘
　此錢七萬三千九拾四貫八百文餘
　此人數貳拾八萬八千四百四拾壹人
　　但獨身者壹人ニ付錢三百文ッヽ、貳人幕四才以上之者壹人ニ付錢貳百五拾文ッヽ、
右渡所之義ゝ町會所に可有之留記中に不相見候

享和三亥年麻疹流行ニ付御救人數米錢高

一人數四萬千貳拾人

此 白米三百九拾貳石六斗五升
錢六萬三千五百七拾三貫八百文

右ゟ定例御救渡之振合ニ而米錢被下之定例御救之内麻疹之趣申立候分被下候義ニ而臨時御救と申譯ニも無之候

文化三寅年大火之節類燒窮民に握飯被下米人數高

寅三月六日より同四月四日迄握飯配

一人數五萬六千九百五拾五人

此白米百七拾石八斗六升五合

但一日一人ニ付白米三合鹽握三ッニ〜て相渡

同年類燒窮民御救米錢人數

一人數五万三千四百八拾三人

此 白米千六百三拾三石貳斗

錢壹万六百九拾六貫六百文

但獨身者壹人ニ付白米五升錢貳百文ッ、貳人暮以上ゟ壹人ニ付白米三升錢貳百文ッ、尤三才迄ハ除四才以上之者より人別ニ應〜右割合を以て相渡候事

右ゟ三月九日より四月五日迄柳原町會所幷本八丁堀五丁目稲荷橋際稲荷社地ゟ於て相渡

文化四卯年永代橋損所出來落入水死又ハ怪我致候者之内困窮之者に手當錢渡

卯八月廿三日より同九月四日迄

一錢三百六拾四貫五百文

此人數五拾六人　　口數三拾六口

内

可稼當人水死拾八人　　可稼當人怪我五人

家族水死貳拾三人　　家族怪我拾人

文化八未年市ヶ谷邊より出火ニ而類燒致候窮民共に被下候米錢幷人數

二月十六日より同廿九日迄渡濟

一人數壹萬九千三拾壹人

此 白米五百八拾七石壹斗七升
錢三千八百六貫貳百文

但獨身者ハ壹人に付白米五升錢貳百文つ、貳人暮以上ハ壹人に付白米二升錢貳百文つ、尤三才迄ハ除き四才以上之者より人別に應ゝ相渡

外 白米七升 錢拾壹貫九百文

口數四口
人數拾四人

是者類燒御救願之內燒死人有之格別難澁之趣に付平常御救渡方に見合增御手當相渡右人數に割候得ゝ壹人に付平均白米五升錢八百四拾八文つ、に相當り中候

文政四巳年風邪流行に付町〻其日稼之者共に被下候錢人數高

二月晦日より三月四日迄渡濟

一人數貳拾九万六千九百八拾七人

此錢七万五千三拾五貫文

此金壹万千六拾七兩餘

但獨身者壹人に付錢三百文つ、貳人暮四才以上之者壹人に付貳百五拾文つ、

文化十三子年本所深川出水に付御救被下候人數米錢高

八月八日より同廿九日迄渡高

一人數八千六百六拾四人

此 白米四百壹石四斗貳升
錢三千八百五拾五貫三百文

但出水床上に押上候分に壹人に付白米五升錢五百文床下迄押入候分に壹人に付白米三升錢貳百文つ、尤三才迄ハ相除四才以上より人別に應ゝ右割合を以相渡

享和二戌年七月朔日ゟ同十二日頃迄出水に付御救被下候米錢人數高

小梅瓦町
人數五拾三人

一 白米貳石六斗五升
錢五拾三貫文

但壹人に付白米五升錢壹貫文つ、

是者床上貳三寸ゟ貳尺位迄水押上候分

一白米四石九斗
銭四拾九貫文
但壹人に付白米五升銭五百文つゝ、
是者床上にて水押上不申候得共右防方に而暫く之内渡世も不仕候分
南本所元瓦町小梅瓦町
人數九拾八人
小梅瓦町名主
九兵衛
一金三兩
文政六未年八月十七日夜大風雨に而本所深川町〻に高汐押上其日稼之者共難儀およひ候に付被下候御救米銭人數高
八月廿九日ゟ九月六日迄渡濟
一人數壹万貳千貳百四拾九人
此白米三百六拾七石四斗七升
銭貳千四百四拾九貫八百文
但壹人に付白米三升銭貳百文つゝ、三才迄て除き四才以上より人別に應〻相渡
文政六未年十二月廿五日夜麹町より出火に付類焼窮民に御救被下候米銭人數高
一人數七千四百拾五人
此白米貳百貳拾八石三斗三升
銭千四百八拾三貫文
但獨身者に白米五升銭貳百文つゝ、貳人暮以上に壹人に付白米三升銭貳百文つゝ、三才以下て相除四才以上より人別に應〻相渡
文政七申年秋本所深川淺草下谷邊兩度出水に付御救被下候銭人數高
一人數壹万五百九拾九人
此銭貳千百五拾八貫五百文
此金三百貳拾八兩餘
但獨身者に銭三百文貳人暮以上之者に壹人ニ付銭貳百文ッゝ、尤三才以下之小兒ハ相除
文政十二丑年三月廿一日大火に付握飯被下候人數
廿二日初日
一人數三千人

二日目
一人數四千人
三日目
一人數壹万人
一人數壹万七千人

但壹人ニ付白米三合ッヽ鹽握壹ッ當て之積

前同斷ニ付窮民之内小屋入無之分ニ被下候御救米錢人數高
一人數七万三千四百四人
此白米貳千貳百四拾石九斗貳升
錢壹万四千六百八拾貫八百文
此金貳千貳百三拾五兩餘

但男女共三才迄ゝ相除壹人暮ゝ白米五升錢貳百文貳人暮以上ゝ壹人白米三升錢貳百文ッヽ、家内人別に應〳〵被下之五月廿五日より向柳原町會所幷新大橋向建添地ニ而相渡

文化三寅年大火之節御救小屋

一筋違橋御門外原地
一神田橋御門外より常盤橋御門迄之間火除地
一上野山下原
一增上寺裏門前馬場

右之場所ニ小屋取建類燒町〳〵野宿致〳〵及難儀候者共被入置候事

文政十二丑年大火之節御救小屋

一江戸橋廣小路
一數寄屋橋御門外
一築地門跡前
一筋違橋御門外原地外

右之場所ニ小屋取建被入置候事

天保二卯年米價高直ニ付町〳〵其日稼之者ニ被下候御救米人數高

一筋違橋御門外より和泉橋迄之間火除地
一堀田原
一虎御門外より幸橋御門迄之間火除地
一赤羽橋際明地
一幸橋御門外
一松屋町河岸
一神田橋御門外より常盤橋御門外迄之間火除地

一人數貳拾七万八千三百五拾三人

此白米壹万三百九拾五石餘

但三歳迄之小兒と相除男と六拾歳以下拾五歳以上壹人ニ付白米五升六拾歳以上拾五歳以下之男幷女壹人ニ付白米三升宛町會所幷靈岸島建添地ニ而相渡ス

天保三辰年風邪流行ニ付町〻其日稼之者へ御救被下候米人數高

一人數貳拾七万八千三百五拾三人

此白米壹萬三百九拾五石餘

但三才迄之小兒と相除男と六拾歳以下拾五歳以上壹人ニ付白米五升六拾歳以上拾五歳以下男幷女壹人ニ付白米三升宛町會所幷靈岸島建添地ニ而相渡ス

天保三辰年風邪流行ニ付町〻其日稼之者へ御救被下候米人數高

十月八日より十二月朔日迄 渡濟

一人數三拾万六千三拾八人

此白米壹万千四百六拾七石餘

但渡方都而前同斷

天保四巳年米價高直ニ付町〻其日稼之者に被下候御救米人數高

九月十一日より十月十九日迄 渡濟

一人數三拾壹万八千四百貳拾人

此白米壹万千九百三拾九石餘

但渡方都而前同斷尤渡場所ハ町會所幷新大橋向建添地筋違建添地右三ケ所ニ而相渡ス

前同年同斷ニ付再度御救被下候米人數高

十月廿九日より十二月五日迄 渡濟

一人數三拾壹万九千三百五拾九人

此白米壹万千九百八拾五石餘

但渡場所其外都而前同斷

天保五午年二月七日神田佐久間町より出火ニ而類燒野宿致候者に握飯被下候人數日數八日壹人ニ付三合ツヽ

一人數貳万五千七百三人

前同斷ニ付御救小屋

一兩國廣小路　一江戸橋廣小路

一松屋町河岸　一數寄屋町地先

右場所に小屋取建被入置候事

一神田佐久間町壹丁目地先

右同斷

前書小屋々に人數多き節と五千三拾人餘入居候

天保五午年米價高直ニ付其日稼之者に被下候御救米幷人數

六月十二日より八月廿六日迄渡濟

一人數三拾三万三千八百貳拾七人

此白米壹万貳千五百貳拾貳石餘

但三歳迄之小兒と相除男壹人ニ付白米五合ッゝ六十歳以上十五歳以下之男幷女壹人ニ付白米三合ッゝ之割合を以日數十日分被下尤渡場所と町會所ニ而相渡す

天保七申年米價高直ニ付被下候御救米錢人數高

七月廿五日より九月十四日迄渡濟

一人數三拾五万三百五拾五人

此白米六千五百六拾貳石餘

錢拾万九千三百七拾七貫文餘

但三歳迄之小兒と相除男壹人ニ付白米五合六十歳以上十五歳以下之男幷女壹人ニ付白米三合之割合を以米錢半ゝニ而日數十日分被下之尤百文ニ付白米六合之割を以被下候事渡場所と町會所幷筋違建添地ニ而相渡ス

同年米價高直ニ付同樣再度御救皆米ニ而被下候人數米高

一人數四拾万九千百六拾四人

此白米壹万五千三百五拾九石餘

但三歳迄之小兒と相除男壹人に白米五合六十歳以上十五歳以下之男幷女壹人に白米三合宛之割を以日數十日分被下之

右と天保七申年十一月十八日渡初翌酉年四月廿一日迄ニ而渡一濟

天保七申年米價高直ニ付市中其日稼之者之内可及飢程之者左之通之場所ニ御救小屋
取建被入置候

一神田佐久間町壹丁目　壹ヶ所
一同町　壹ヶ所
一花房町　壹ヶ所

右之通小屋取建被入置朝夕之御賄壹人ニ付白米三合ツヽニ而焚出シ被下候事
但前書之小屋〻ニ多人數之節ハ五千七百人程罷在候

一柳原土手北之方ナダレ地と唱候場所ニ御救小屋壹ヶ所取建候得共小屋入ハ無之取拂ニ相
成候事
但ナダレ地と唱候場所ハ和泉橋より稲荷河岸と唱候橋場迄之所也

天保九戌年四月十七日本小原町より之出火ニ而類焼致候窮民野宿いたし候者ニ被下候
握飯石數高
一人數七千五百人

此白米貳拾貳石餘
但壹人ニ付白米三合之當ニ而握飯ニいたし梅干三ツ宛相添紙ニ包ミ遣ス

右同斷ニ付類焼窮民ニ被下候御救米錢人數高
一人數壹万九千貳百貳拾人
此白米五百七拾八石九斗貳升
錢三千八百四拾四貫文
但獨身者ニ白米五升錢貳百文ツヽ、貳人暮以上男女之無差別壹人ニ白米三升錢貳百
文ツヽ、三才迄之小兒と相除き差遣ス

同年閏四月四日麹町拾丁目より出火ニ而類焼致候窮民ニ被下候米錢人數高
一人數五千貳百九拾六人
此白米百五拾九石九斗
錢千五拾九貫貳百文
但渡方都而前同斷

（是も勘定所より得たるものなり）

安政二乙卯年十月

破窓記 東都大地震之記也

城東山人識

破窓記序

おとゝしかみおつきのはゝめおねふりいさくつよかりゝゝハ此大江戸五里四方のきはみはこるくはおく家たふれぬりこめくりまゝおほくの人をちの身をやふり命をそこおひゝもすくあゝらはあめのゝゝさやをくたひらけくゝてかゝるゝさはひのおこりゝハいゝふとゐるゝゝせよとひけまハ國家まさにおこらん時を必祺祥ゐりほろひん時を必妖孽ありといへるぬるきおゝはもおねのゝさめふくつゝへりて國家おこらんとゝて妖孽あるゝおゝそハあらめとほゝ忘ておゝさへらまきさらハゆくす（おみ繁さうゐへき　大御世おゝらまことにためゝすくおきちんじよおんいてやそのゆへよゝをかきおるゝてのちくのゝおゝくさよせゝやとおもひゝ

ゝとおのまゝもとより家まつゝくひとむもおさゝきおゝゝろおくよろりよをのうくてふてとるゝさふうとけれゝをせんすへおくて谷みさりゝを日一亭（家在日本橋與一石橋之間）翁いつゝゝゝかゐきゝろくよろこハゝくて芝のゐとりのおハくみるよみ（厩邸）くるわちゝきうちとより神田のゝみりかさ（賀人）ゝみあさまをはゝめ下谷乃おもり（賤民）ゝさゝいちまちよ至るまてくハゝくさくりおまゝに為つ絲て其ゐりさはをはのあさりに見るゝ如くかうよハゝよものせらまゝハ淺草のあさゝらぬまあひのゐともあらハまて馬路のうまくはせさるふてのちゝらのまへふゝて深川のふゝくめてつゝ本所のほんとおすへきぬみおまハ龜戸のかめのよハひとともによろりよまても永田町おかくまこゝにをさへはゐゝくて小川町のをゝハの水はあさきおゝろもをちらハすみきハよおゐむふるくさのみゝゝゝきさえをもおもひをゝらでいさゝゝまきのをゝにゝきりくるふおんときハ安政二年十一月十日かくいふをえとのおゐきのもとにすめるぬるふをやこのおりのらにふさハゝき不立亭のあるゝ覺（オムル）とおのり又無物とおの雅志（陳人）まものよておりハひのひはおきいとはふふてとりつゝ

巻中標目大概

一地震起り〜次第之事
一小川町丸之内邊の邸宅類破て火地とおり〜形勢之事
一諸色の價騰貴せ〜事
一御救小屋建〜場所之事
一芝本所深川淺草下谷邊の人家倒る又火地とおりて怪怜おるありさはの事
一市中變死人員數之事
一潰家潰土藏町家燒失惣町數之事
一三十口火元名前之事
一變死人の有數を量り記〜て後人の惑を解く事
一元祿以後大地震ゐり〜年月之事
一武家町方燒失場所之事
一變死人之爲ゑ施餓鬼を執行〜諸寺院之事
一新吉原町假宅御免場所之事
一當十月二日以來晝夜數度地震動搖之大小を量りて日記せ〜事
一大地震を詠せ〜詩并連句

星霜れ窓乃記

安政二年乙卯十月二日晝のゝとハ天曇り氣を含めり夜ゑ入る少〜く晴る戌の半刻過キ吾も婦人と小婢の間ゑ在て眠るをもよゐをりから殷いふりゆ覺〜くゑ天地おのづゑら聲ありて婦と婢ハあといひさはゐ我ゑすかるを扶けゐゝ梁をよきたる柱ゑいさりよるにくるし〜くゑ〜〜と千よゐつの雷鳴ゑさるやうおゑゑ人〜のおめき叫ふ聲おちこちゑ聞ゑおり〜も二階ゑ積さる書匱又居間架より雜具とも顛れ落壁又障子ゑとハおゑのうり樣ゑ見へ天井鴨居動ゆひ〜めき女ともハだゝゑ消へいるはゑりおり〜ゑとゆとおく搖りゑみ〜ゑハをちこちゑ人聲さう騒動さき聞ゑ女ともやう〜心ちゆき〜ゑハやをら老の身を起〜窗戸引あけてゑよ人〜火あやう〜火所ゑ心せよと忘れゑ聲をあけて提燈とも〜て外面を見やれば我あつゑる所の連家ひと棟の廂とゑ崩おちたれハあきれおゑら身ゑちゑ疵つき〜ゑのハおさやゐゐはりゑあわてゝ身を害ひそおといひゆゝ問ふゑ人をな色をう〜おひいまゑ息もゆきゐへ絲と疵も得ゑよし皆まうゆ此歡ひ我身にとりていとかきりおゝ〜といろふ又我家を見るに壁こゆきハ〜らゆをつをたれと住ゑふるゆとにハあらゆさるをりから火のおこゑ〜を知らゆる半鐘のおとそゑこゝに聞ゑ家のうへゑよちゑ登りて見きハ東ハ本所巽ハ深川西ハ丸之内乾ハ小

川町南ハ京橋の邊り北を下谷良を千住吉原淺草をへて火の口はさちをのり見も丸ウ内京橋のみとりおとの近き火の子（火の子といへる事平家物語ニ見ゆ）ちりほひ家〳〵の燃る音さへいからさきよていと〳〵をさま〳〵其夜北風よて京橋の火を我居る町（西河岸町）をきりよせれハ氣つかハ〳〵からに又丸之内の火を火の行かさいらよあされり小川町のを追風よていと〳〵あ〳〵なれハかよかに火のやう見んとて家を出つ時ニ丑の刻ハかりおり我町をぬりためのおかのさ扇をたれハ家〳〵ハ庇おち傾きたるハをふて倒れたるハおく一石橋の南の橋きハの石垣少〳〵く扇をおちい〳〵あ〳〵をもる地壊をたり此橋を北鞘町の方さまへてさるにねねふりの為ニ（大地）よをちのをへてあれをさみ〳〵ハおかさむとひらの紙をもみ〳〵ニ似されハ江〻にいをを又さりかたきハ後よいふべ〳〵先鎌倉河岸より二三番の御火除原の前ををき四番原のうしろへよきれハ小川町松平豐前守殿本郷丹後守殿焼る裏神保小路北角西の角より一橋通り小川町東之方片側表猿樂町堀田備中守殿西角よりおゝ〳〵へて水道橋ハ邊り迄御旗本衆屋敷焼る四番の御火除原のつゝき御堀端小出伊勢守殿太澤右京大夫殿屋敷前より俎板橋迄之あわひ大地裂るかのほハ今をさうり也行く足もとゝはら絲ばあもをを歸〳〵て見やるふ一ッ橋御門内の左右石垣いたく崩るこの御門を入て右手（メテ）のかたさはへ行くに第宅築地あるハをふをを又を倒をを所せき中を踏をけをゝ火のあるかたを見るよ大手御門向ふ酒井雅樂頭殿上中二屋敷辰ノ口森川出

羽守殿邸焼る尙和田倉御門の内よりのほ見も後よ聞けハ御門内松平肥後守殿上下一屋敷松平下總守殿西丸下内藤紀伊守殿焼る松平玄蕃頭殿屋敷焼込和田倉御門番所等焼る又山下御門幸橋御門内外櫻田邊を松平肥前守殿松平大膳大夫殿松平時之助殿伊東修理大夫殿龜井隱岐守殿南部美濃守殿有馬備後守殿松平薩摩守殿中屋敷等かへて焼る又松平肥後守殿御持場内海二之御臺場焼〳〵と云ゝををおきを八代洲河岸の方へもくよ遠藤但馬守殿同續定火消役御役屋敷又松平相模守殿上下二屋敷本多中務大輔殿永井遠江守殿屋敷等焼る馬場先御門左右石垣いさく頽るおゝより家路をさに道をゝら見るよ龍の口阿部伊勢守殿第宅潰を築地倒る傳　奏屋敷御評定所潰を築地ハ御堀端へ倒をを小路いと狹く地又裂さり終よ吳服橋御門より家よ歸りぬ市中の人〻を再ひかねふりあらん恐れゝつハ火を避んとを大路小路ノ資財家具かと持出つ莚敷戸障子かと圍ひて宿り互ニ明るを待てり今夜さいをひよ風をつゝふ〳〵を曉る頃かひよもやまの火かへををつまりぬ此珍事江戸おゝかへをの事かれハうゝしやゝら（亂族）も扶け來らにちゝ〳〵き人もさらに訪られに明れハ三日天晴たれハ家よ歸らにのれハ梁よ敷ゝれて死さり又軒よ打れを命絶〻かり瓦よあさりを傷つき惱りかとおろ〳〵聞へを人も我もかへをこゝち靜からによへ新吉原町のくるわの火よ焼れを身をうゝかひ〳〵ハ其地よにのり〳〵人〻のねかばと聞もかつ生のひさる所そひともハ繋ぬ船のはつる泊りをもとめんとを

市路をさまよひありく又おやうさ置せ給ふ淺草の獄舍をむらきて罪人を放されしゝハ其人〻市よりのらむをおそときまゆ我ハ今日家よりありてありける所の火の災ひ忽ちらしめんこゝ病者
へおとに午過る頃吾連屋の荒さるさまを地主よまう〳〵告んとて出つ青物町より海賊橋を渡り靈岸橋より右り靈岸島の邊りよ火地のさまを見て永代橋に出つ青物町よりおゝまて建て
つゝきたる家〻ぬりおそハおねのゆりふるひさるかきり江戸のうちをへて裂け頽れさるハ
おけきハくさ〳〵くうちかへ〳〵云ておくもりらにさて橋流ひさりて左り之方佐賀町に行よ
家〻右り左りより打倒きて小路をふたきぬれハ人〻とともに家の倒れ為る流踏おえて吾地
主深川永代寺町栖原三九郎こり（許）へ訪ふ家をゆかみ頽れて人〻を例の小路よむ〳〵ろ敷て居る
よおハ〳〵かほとハあされをものいれにやうてある〳〵為り人〻よ誰かれの安否を訪ふよ疵つ
き煩ふをのもおきよ〳〵いらふさて吾あつかる所の家〻のゆりさまをのか為りてかくてハい
うてあをうせおのくゐをよろ〳〵くをくみ給へと申せとも地主も小路のたゝをまひぬれハおゝ
むても申かさくて又の日尚うゝひまうにゐをよ〳〵をの〻て歸りぬ其道をから小網町を過
るよ北新掘町より小網町のあをひとおろ〳〵地裂けたる所有きおこらのおねふりのさま流
心よいさをは家よつきぬ職人の料錢あきを（商）のきをの〻價ひ高ふをは〳〵き由流おやけより命せら
るされともおへをの職人ともハ金壹分又ハ貳分受取あきをのハ蓬莱繩草鞋よ至るまゝよのつ

をの價一が二分を增〳〵（故ふ今月十六日十七日之間材木屋荒物屋職人其外家造普請等よ携る者共多く町奉行所に召捕ハる）金壹兩二付六貫六百錢おり〳〵も忽ち六貫五百錢になる（錢相場高うをまゝきよ〳〵公より兩替屋共にたゝちよ命をらをしゝハ其心を得〻忽ちもとの相場ニ歸〳〵たり）
か〻るをちも時に從ふおのつから勢ひにて又とゝめかたき所おりゝ〳〵今夜子の刻過る頃大
手御門の内下御勘定所より火出〳〵かと他も燒をして鎭りぬ四日天晴家ふ在りて壁のおゝを
塵ひちおど打をらひ衣服入れ〳〵櫃つゝらおと取收めて後吾墓とおろのいかふ荒けイ又婦お
るをの〻老さる母うへの安否も訪はまゝ〳〵くて家を出つ江戸橋ををさり小船町を過る此ほ
とりおとハつよくゆり〳〵さはおり横山町壹丁目飯沼屋源兵衛こりを訪ひ老母又人〻の事故
おき流歡ふ同二丁目佐保介我三町目の田中甘志を訪ふにふた方共に恙おゝ〳〵らの大路の
ありさま流見るに忽ねふりの爲めにうせたるもの〻亡骸とおゝ〳〵くあるハ酒入を〳〵樽又ハ
水桶こつハ菰おとに裹（クヽミ）さるまゝにていくらともおくさ〳〵荷ひ行ハ本所の回向院又を淺草
下谷おとおの〳〵其よせあるゝさへとりおくおるへ〳〵嗚呼さもあるゐ〳〵新吉原に死せるを
の丸の内小川町おとの第宅又本所深川おとハ殊ニをさは〳〵くゐり動き〳〵と聞ゆれハ物にう
されを死〳〵たるをのハいのをかりにのあらん甘志にいとは告て吾よるへのみてらを訪らハ（香花院）
んとに甘志もともふといへるにをらハとをいさおふ行く阿部川町稱念寺（一向宗）地中願信寺よ
いさるに堂社ともよいさく賊（ソコノ）ふ住僧よあひて安危を訪ふよ辛う〳〵て恙おく凌き〳〵といふ金

神田橋御門外本多侯家來岡氏柳の屋鳳齋北屋に在り一ゝ此離ゝあひて沒せり

ひとつをたとうかみ（墨紙）にさゝく本堂庫裡もいさく荒されと本堂も瓦落壁毀れたるのみにて先ッ平らゝあり墓所もいうにと氣遣ハ一くまゐるに人のも我のもおへて打倒れてあさまし吾志るしの石起しても思へと老の手に及ふとおろゝあらされハ空しく禮しく歸る道のゝと淺草新堀端御書院番組屋敷内安井氏俄松同所奥の原大井氏千紫兒玉氏立碁を訪ふゝみゐ事なきをよろこぶ日も暮ぬ急ぎ際おれハ家に歸りぬゝふ我みてらへまいりしをり本堂の傍に人のおきゝ（鼓）ら十ばりありき一寺ゝさへ斯ある況思へハ江戸の寺院いくもくかあらん此四五日ゝあゝひ猶身まゝりしをの況とりゝさ絲さらんふハいゝもりの數おるへき既ゝ今日

おゝやけゝ此災ゝ死せしをの、有數を其筋〻におゝせそかへさせ給へハ猶後ゝ全ク況伺ひて記をへしかり予ゝ年ころ志さしゝりし徘諧者流ゝ災ゝかゝりをうせしハ深川西平野町素雲堂曾云（カン）本所三ッ目逸見甲斐守殿家賴翌日庵早來同所綠町天鼠庵桂雨おり此中曾云の父紙屋六兵衛とゝ本郷春木町ゝ住ゝ未醬（ミソ）ありてあきものとしし家富さり我父を本郷古庵屋敷ゝ酒商ふ家ゝて大坂屋藤兵衛といひしゝ紙屋六兵衛とハ二おき友とちゐりきさる況六兵衛身まゝりを嫡子おるをの、其家も名も繼しゝと身を花奢風流ゝ浸りしゝは家やうしく衰へしを二男ゝ讓りてか絲を好めるゝさおゝとハ遂ゝ徘諧者流ゝ陷りをなりたひとす五世雪中庵

御小屋人を廻ふものいと多ゝりしゝハ後は上野御火除地深川八幡社内此二ヶ所に御救小屋さちて都合五ヶ所ニ成る

雲蓋三十三間堂は先後曲て中程より先キの方千間斗長シク倒をたるは佛力あり て上圖觀音の安置もなくて千の御

對山つきて綠淨庵雪鷗といひき雪鷗の婦おるをの名をゝうといひしゝ吾父の媒しして本郷眞光寺門前おる笹屋七兵衛とゝいひしゝ餅屋ゝ婦（ツマ）ゝおくりぬ雪鷗も天保年間と麗ゆ不幸にして東海道の旅ゝ病て死を其後紙屋六兵衛徘諧の名況曾云といひしゝ終ゝ家況をふらこ（傾）しして又徘諧者流をなりをひとにさるを近頃病て腰扇りありくゝと況得をして憐むへし此難ゝおひぬ吁（ア）遠つ祖より代〻ゝほをさへ若干（ジャカン）の資財を浮華のさめゝうしおゝふさりおゝらかゝる終りを遂るハいと〳〵うをさき事おりゝしゝを爰ゝあつゝるまし事おをと又因みおきふしもおゝらさをハ筆にゝゝせて記を今日幸橋御門外の原淺草廣小路深川海邊大工町此三ヶ所に窮民撫育のたをゝ御救ひの小屋建つ　五日天晴るいて此後の思ひ出ゝ又あひゝさき治平の中の愁ひをも見て來んとて朝より家況出つ先青物町より例之小路を過て永代橋をゝこりつゝ右り手へ曲くに迦久土（カクド）の神おゝらひゝかゝりて相川町より富ヶ岡乃八幡境内のきゝまて左右の町〻殘りおく又此南北の裏町ニも多く燒て漠〻さる曠原のおとく燒るかの境内のきゝゝをもおしく燒殘りしし町家を強くゆり潰れて恰も鬱（ウツ）を亂したるゝ如くゝおゝより汐見橋況ゝさり吉祥寺辨才天女の祠へいさるにおゝゝゝも波ゝもいさくゆられぬゝ歟つゝゝおしゝゝより江島橋をわたりて木場へ出つ塹にちゝきこゝらの小路地裂さる所いくらもあり扇町より吉永町東西の平野町へ出つ此あたり家〻ゆり潰をしに材木おとやゝうへゝ算を亂して人〻の

手にも引止めかさ〜敵

浮心寺の前門いさく倒りつふれ雷屋寺の前門も倒る橋に浮心寺の境内を通り抜しこ力士阿蘇松師之助瀧風林右衛門あとの大きなる墓碑の倒れてあり一かか、る人の七墓も何さま倒へかさ〜や

本願寺高門は倒る木牧は恙なし

行ゐひをう〜おふ此あたり伊勢崎町の邊りも焼〜と聞けとゆゐにたゝちに浮心寺靈岸寺門前より高橋をわたり本所常盤町の火地を見て行き〳〵森下町の焼土を蹈つ彌勒寺橋をこさりて右りへ閑月庵如萍を訪ふに互に事おきを歎ふ咨ふを出て三ッ目通りへよきらんとせるに又徳右衛門町の火地を踏て三のは〜をわさりつゝ南割下水へ出るあはひおへて強くゆり〜さまふて屋敷〳〵多く倒き潰る長屋町の邊りに安西氏巴丈を訪ふにそゝうおし〜爰ふ本所四隅の所〳〵にあり〜火地の大概をかきとゆきゆき見ん事も暑景のかきり有ハ南割下水通りを西さはに下りて御厩河岸に舟をさり〜て八幡大神の在に大護院門前へ出淺草寺の方へ行んとせるに三好町より駒形堂のきをまて大路左右皆焼る淺草寺境内を隨身門へよきりて北馬道より猿若町に至り火地の有やうを見るにゝより吉原千住まて冬の焼野の立うへるゆき春もおきやうに見わさるにおあをき〜とうちうめかるかゝるう中に火を避きたる山の宿町おとの家〳〵にハかのくるをのあそひらこゝかし〜こに見ゆ行〳〵淺草廣小路又田原町抔經て東本願寺へ入り下谷廣徳寺前通り東叡山へ入るにおへて例のあれをさみさる中に山王權現又さ觀世音の在に堂社のかとりに染をさりあるる楓葉の斜に日に映〜さるうめてさ〜ゝを出て三橋をこさりて見やるに廣小路に東側松坂屋といへる呉服屋の角まておへて焼る此中に也松坂屋ハ多くのぬりおめをおのほに成て一抹の塵埃も殘らに江戸商人第一の損失也と

後に芝邊に行一に霜月町柴居町字田川町神明町邊は家倒れ潰れしも少なからに又下谷なとも坂本茨輪の邊は是も倒れ潰れ一さまいとすさまし〜かり一すへて同一芝同一下谷の内にて動揺の强弱あり此外も皆一かり

聞も又此裏につゝきたる町〳〵多く焼る下谷池之端茅町の邊りも焼〜と聞ゆをと行をして御成道浜家路の方へさに石川日向守殿屋敷焼る此向ひおる井上某殿の屋敷ハゆり潰をてたゝに薪おとちら〜たるやうに見ゆ筋違橋を渡りて吾家に火とも〜頃にかへるぬさておもふに本所深川ハおおふり殊につよかり〜に歟行うふ人〳〵あるハ車ひき擔ふおる雇人等も多く身うちに疵つきて見も我居る町のかとり南を京橋芝北を神田本郷のあさりハゆりふるひ〜も緩きに歟うゝる人さちも疵つきたるハ少おうりきにハいつをも地勢のをうら〜むる所にてせんをへおー又神社佛閣を富ヶ岡の八幡靈岸寺淨心寺本誓寺淺草寺東叡山中堂天王寺湯島天神抔をいつをもをふまのあさりに見へ本社本堂の平うに立せ給ふハげに神佛の奇特あるによれるよ〜おへて人をおもふめれとさふをあら〜必を鳴轟けとをも棟梁四簷おのをからのりにおおひて釣あひよけをを傾き僵をさる理り有るおる〜〜こゝらに中ふも淺草寺天王寺おとの塔乃（規矩）（浅草寺の塔ハ事故おくて塔上の九輪曲り傾き天王寺の塔も恙おく九輪を曲りて又八代洲河岸の定火消役御屋敷の火の見櫓も恙おく頭の程又屋根抔をゆり落せ一おり）事おきを見るに極めてさる事とハおらる咨を根もおき行燈やうのをのなとのかゝるをりにふれて倒をさる如くかの彌次郎兵衛とゝい〜るをらハの玩ひものゝをうるによく立るう如きハ皆釣合に從ふをのおりう〜又數かきりおき橋抔のゆり頽をを落さるも粗見えぬハ神佛のおを〜て橋浜守り扶け給ひ一おといふ〜きすちもおくを是も必を頽を落ま〜き理の

有ふよをりさをハとて神佛を驗なきものとさみ〜いふふハあらに聊思ふ所の義理をもて述るものおりゝ〜

今日武家方の營作おへて花麗の費を省き築地おとも防禦を凌くまてふおつらふへきむね命せられ〜ゝぼ市中に家〜も見さまよかゝるらに風雨を厭ふ迄よ作り營むへき旨を仰出さる

一石橋の橋臺石垣おいふりよ崩を〜後尙おひくよをを落るよりて今日より往來人をとをらる　六日天晴るけふを家よありきのふ糕八斗を買得て餅肆へあつらへ〜ゝハけさ搗て獻餅といふをのふつくりてもて來とみよ予ゝあつゝる所よをる人〜よをゝちに尙さへ尙のおれるを近きわさりのゝゝらやゝら又おさ〜き中らひへもをゝち送る今日深川大島町よ住るものともと歟黨をくみて近き所の破をさる土倉よお〜入て米多く奪ひとりて去り〜ゝハ其をものともの中捕られて吳服橋御門の内おる町奉行所井戸對馬守殿に送らる　七日天晴る家よ

に〜ぬたゝひをよくゆをて家〜ハさら也外面の仮屋おと潰るゝ時をあらんふハ火の災おおらに二日の夜より後よるひるの間二さひ三をひッゝをお〜くゆらさる事おけをハおのもの〜いまさ大路よまとひをるおほよそ今月廿四日頃迄よ漸くあねふりうばらきゆりやむおのをを三日の夜よりふたゝひ

らに〜めさらんゝさめ竈ハ焚終らハ早く消〜おき手爐火納おとハ蓋おきて立さるををきむねのふさくたりを觸示さる　八日天曇る在宿けふ市中組〜の坊正より於ねふりの次第書記〜て町奉行所南池田播磨守殿北井戸對馬守殿へさゝをを其有やう變死人通計三千八百九拾五人男を千六百十六人女を二千貳百七十九人也此内新吉原變死人六百三十但シ男百三人女五百廿七人ありこハ名字住居つまむらゝおるものを撰たるおて此外他より入こゝ〜ものゝ死〜たるおと戌尙とりゝさねおら百四ヶ所此餘の土藏をへて破損せさるハおゝ町屋燒失總町數凡長二里拾九町幅平均二町其町〜を爰ニ記ス但日本橋南長サ壹里十間餘幅平均二丁廿四間程日本橋北長サ壹里二町四十間巾平均壹町四十七間程○本所深川長三十一町十間餘巾平均壹町四十三間也○御曲輪内諸家方燒失不分明仍爰ニ不記○小川町武家方大小五十間餘おて長サ七町半餘巾平均四町程○内海二ノ御臺場一圓燒失

一南鍛冶町壹町目狩野探原屋敷五郎兵衛町北紺屋町壘町白魚屋敷南傳馬町壹町目貳町目南大工町松川町壹町目本材木町七町目八町目鈴木町因幡町具足町柳町炭町此火元南鍛冶町家主長兵衛同町庄兵衛おハ京橋北詰町〜總而一口也

斯て變事ニ依て人〜ゝ〜ちす家を捨て退きのゝれたる後よあやまちて家より火の出るものハなのつゝら家主の罪を得るもの也されハすべて家主あねふりせん事あらハと其心術〜て宿よ臥せりけふおゝ谷けよりの御觸よ大路小路よ所せきまて仮屋〜て搆へおをハ乘馬其外往來よ障るおとありてハあ〜かりおんさらハ今より後を道よをゝ〜ゝらに又をゝゝををておのつゝらら疵請るおとなから〜めんやふに斗らふへ〜ゝりを

おもてみゝ二火元はし

行安寺門前ハ淺草茶屋橋西際也

一鐵炮洲十軒町松平淡路守殿共一口此火元と十軒町鐵三郎店龜次郎也
一靈岸島鹽町同四日市町同銀町二町目大川町總而一口此火元鹽町家主儀兵衛也
一柴井町月行事房吉火元一口也
一兼房町松平兵部殿屋敷共一口也（元缺火）
一淺草駒形黑船町諏訪町三好町淺草三軒町同所八軒町總而此火元駒形町家主龜次郎三好町同彌兵衛兩人也
一猿若町三町分淺草田町山川町花川戸聖天横町南馬道北馬道谷中天王寺同所淺草寺地中町家十八ヶ寺分一口此火元淺草寺地中家主小兵衛也
一新吉原町五町幷五十軒（南側ハ共一口也此火元江戸町二町目家主松五郎同町幸吉兩人也）
一今戸町家主庄吉火元一口也
一橋場町（元缺火）一口也
一淺草行安寺門前同所正行寺門前同所本立寺門前一口此火元家主喜十郎也
一同所龍光寺門前家主保七火元一口也
一千住小塚原町一口也（元缺火）
一下谷茅町壹町目貳町目池ノ端七軒町講安寺門前稱伯院門前其外門前地五六ヶ所總而一口

此火元茅町壹町目家主清兵衛同二町目同金七池之端七軒町清左衛門右三人也
一下谷南大門町同所同朋町同長者町壹町目同二町目同所常樂院門前下谷町壹町目上野町總而一口此火元上野町家主與兵衛也
一下谷坂本壹町目貳町目三町目此一口火元三町目五人組持店醫師清庵也
一南本所番場町北本所番場町同所荒井町總而一口此火元南本所番場町家主新八荒井町家主忠太郎也
一本所中郷竹町同續松平周防守殿下屋敷共一口也（元缺火）
一南本所元瓦町同所小梅瓦町一口火元ゝ元瓦町家主新藏也
一本所花町同所綠町一二三五町目迄總而一口此火元花町家主德兵衛綠町一町目同市五郎同二町目與兵衛同五町目安兵衛右四人也
一同所出村町中ノ郷出村町一口也（元缺火）
一龜戸町一口也（元缺火）
一中ノ郷五ノ橋町一口也（元缺火）
一本所德右衛門町壹町目二町目一口此火元二町目家主總兵衛也
一深川常盤町壹町目二町目一口也（元缺火）

此度の變死人數實三万人餘或五万餘にも聞へ至而甚しきハ廿二万餘人ゑといつれも物ゑ記し聞ゆれ共皆浮說ゑゝ取へからぬされとかゝる事も後世ゑ及へハ却而浮說莫大ゑる方を事實ゑする例少ゑゝらに既ニ予ゑゝ聞ゑ一万ゑあまるへきよしを書付しハ聞ゑ動くまゝき數量ゑりそハ市中總計三千八百九十五人也武家寺社を二階ゑ加へても雪万二千人計りゑり其内市中の死人の洗れたゑる多けれハこれゑれ識地して其數實凡一万五千人ゑをたちさるへしゑゝ後世の誤を解ん爲メゑ記すのみ

一同所六軒堀町同所御船藏前町同所森下町一口此火元六間堀町家主新藏同所同勝五郎御船藏前町同勘次郎同町同久兵衛森下町同德右衛門同町同勘四郎右六人也

一同所伊勢崎町家主市兵衛火元一口也

一同所龜久町家主忠次郎變死ニ付組合金兵衛火元一口也

一同所相川町熊井町諸町富吉町中島町大島町黑江町蛤町總而一口此火元元熊井町家主利八大島町同幸次郎黑江町同善兵衛蛤町同伊右衛門右四人也

一同所永代寺門前仲町同門前町同東仲町同山本町一口此火元永代寺門前町家主竹次郎同町與兵衛同所東仲町同金次郎同所山本町同金平右四人也

市中出火通計合三十口也ゑはそへゑ市中のミの分限ゑゝ其中變死人ゑとハ武家方社家寺院を籠めゑいくゑくの數ゑあらん取集めゑハ必一万人ゑあまるへし玉川上水樋筋いたくさけ破ゑしゑハ大木戸より麴町十二町目横町角迄石樋假御普請ニ依ゑ今日より往還ゑ間普請場所おくり〳〵ゑ往來をと、めらる　九日天曇る今日堀田備中守殿（從四位侍從沼之間詰領下總國佐倉十一万石）御老中上座被　仰付再勤なり夕りゑゑ紅樹園朗一訪ひ來る此老人ゑいふりの夜牛込逢坂の上駒木根氏氷骨ゑもとゑ在りしゑゑ家ゑり傍らの雌崩ゑしゑゑど辛ふして老人も氷骨も死をまぬゑれしよしを物語るついでに世くさゑて天の下ゑくさ〳〵の害ひおゑるを古稀過る身のまのあり見も〳〵聞もゑるゑれさゑさと此上ゑひさふるゑ　上御壹人より下萬民の動搖のかとハ天神地祇の加護ゑあらされハ大八島國の行末安く平らけきを見ん事おかつゑゑおしゑゑと歎息して句あり

往ゑ時雨神の迎ひゑ出雲まて　朗一

予もいゑる夜斯ゑのせしとゑ書て與ふ

尾鰭おゑ海鼠ゑも翅の願ゑゑ

搔ま粉ゑあらゑとゑゑしや鷄卵酒

凍ゑるゝつちゑ口あり霜の聲

ゑゑらへゑ鳥叫ひ聞やきゑゑ〳〵に

あゑふり火おこりしさまを

熬らるゝや柴漬鮒のひと凝り

日も既ゑくゑんとに泊りてんやと問ふゑ妻子ゑおゑゑん事もといらふゑひゑとゝむへき時（答）

ふもあら絲ハ再會を期して別る　十日天曇り在宿午過る頃薄甘舍介我來る火桶のゑとに題を探る其中秀吟

木の葉さそふ入相の鐘ゑ聲ゑうち　介我

又予も

雪催ふ雲の光りや夜の海

おと口號む互ニ的ニふり以後の氣韵おのつゝか句中ニ顯ゐゐりと評〜つゝ別る此十三四五のあゝひ巣鴨小原町一行院紀州産德本上人開基淨土宗ふてゝさひの災ひにあひそうせたる人〻の法會行ふよ〜聞も　十一日天曇るゝふハ故郷のゝるべを訪ハまゝ〜く其つゐでニおちこちに有さはをも見んとゝ巳の刻ゝり小家を出ゝ吳服橋を渡り和田倉御門を入るニさゝ書付〜御かゝ〜〜の巨萬の屋敷の火地とおり〜を見るに此あゝりハいたくも〜さはふゝ第宅とものの火ニぬれさるも猶火地ニ異おらにあゐゐさゝて見も

御本丸西丸の鳳城御櫓御營おとおゝけおくも見あけ奉れハ石垣頽ゐ御營傾きゝ見も西御丸ハゐきゝゝうゝふきゐるさはなりきされとこゝらに御事ハゝけゝもいふまゝ〜き例おれハまのゐゝりのすさみを書記ゝのゝおりゝゝゝより大手御門前を經ゝ神田橋御門を出ゝ小川町の有〜火地を見るニ其傍の火ニあゐさるゐ〜きもお〜おへゝ潰ゐ倒ゐ〜ゝハ燒ゝる地よりも荒たるさまのゐゝらさはふゝいと〜〜ゝさまゝ〜行ゝ水道橋をわたりつゝ水府公の御あゝりを窺ふに館を初めゝ築地ニ至るまてつよくふるひ〜さはいふへくもあらにゝゝニ前中納言齊昭卿の羽翼の良臣若年寄海防掛り藤田誠之進元虎之助おり〜かと戸田忠太夫ふ對〜て誠之進と改名せちる所謂誠忠之二字を以て羽翼と

覺日蓮佛の練師屋號謂徑かとい〜るゝ共ニ書誤之説ニ

〜て兩士と若ニ出るのゝニあらにゝ觀ゝ孝あり既ニ其夜場動揺のおりかゝ其父母を救んとゝてゝゝる災ニ逢〜と聞く嘗て天倉ハ是ゝ非歟といへり〜古人の金言うへある說情むへ〜歟ゝ〜

せさせ給ふ御心ゝへなり戸田忠太夫此兩士ゝ文武之達人ふゝ世ニ昔く聞へたる人達也殊ニ誠之進ゝ博學多才ふゝ此度之變事の十日ゝうり前とゝ文武の司を命をられ〜をかゐふりの夜兩氏ともおのゝ宿所ニ有て共ニ此難ニあひ身まうり〜と聞も此ニ歎息をゝのひゝ百間ゝ長屋の前を過ゝゝ江戸川の北ゐゝらを行ニ龍慶橋の上ゝ中之橋と石切橋のあゐひあるハ一條あるハ二條ニいさく地の裂〜あと長〜と見も小日向の荒木坂ニ酒商ふ家の松本屋忠右衛門といへるハ吾親屬おれハ訪ハんとするニ家衰へゝ先ッと〜あとおく成ぬと聞くニほゐなく小石川傳通院前通り富坂を越へゝ本郷のあゝりふそこゝくのゝる〜又中村星鴉おとも訪ふニ皆事も〜な〜ゝゝより家ニ歸らんとゝるニ不圖懷舊の志をおす者も〜〜愚夫其むゝ〜ちゝゝ父への讓られ〜家を空〜く打僵せ〜身の幸ニゝゝさひの難ニ潰されさるハおのつゝら天性のゐゝ所と思へゝと又幽冥ニ在に家祖大人の廢給ゝて身に添ふ陰と守らひゝ扶け給ひ〜ニゝと思へゝいと限りおく尊〜されハ先ッ日吾祀るゐゝ墓とゝろのくりゝ〜ゝ〜を發〜立へく思ひ〜ゝと老の力ニおよハゝ〜て心ふもあらて歸り〜ゝさらてハ道ニ背ゝゐるすちおれハこゝより寺ニふたゝひまうてゝ在りゝふ人を雇ひゝ墓ゝる〜を起〜たてつゝ樒つみて奉り額つきをゐゝ歸るさニ田喜庵護物の墓在り〜ゝうハ其つゐゝニ起〜立ゝうの雇人ニ錢あさへゝ老婆心をおゝこの護物とハむつゝ交り〜事もおけれと予も常ニ徘諧を好むの癖あるよよれる

也けり日もやゝ西ゑ傾きしゝゐハ道をいそきて家ゑ歸りぬ今夜雨降て人〻の窮迫やう〳〵緩まんとに水府公御守殿ゐゐふりゑ損ひしゝゐハ線姫君樣御逗留のをめ明日御本丸に入らを給ふよし其道筋に觸示さる

十二日天晴るつとめを竹二坊訪ひ來る其ゆへハ今度の天災ゑ家を破れたれと身を傷られさる歡ゑとて閑月庵ゑ芋汁調してをふの翁忌吊ハんとおり其厚志を手を打て感を午の時ハゐりゑ介我甘志いさおひて閑月庵ゑまとねを其人〻介我○流志○先柴○甘志○立基○花海の六客おりおの〳〵祖翁の像前ゑ手向る句あり今度の災ひゐ遇ひて子來桂齋二老の身まうりしし事を端作りゐ書付て

見し憂を翁ゐつゐて祀らハや　介我

又おゐふりゐもゐをさる庵ゐしの眞心にけふ乃正當とり行をるゝ風枝の根さしいと〳〵堅固おる事浓思ひて端書して

けふをたもつ下葉の露や冬ゐ菊　花海

人〻の秀吟猶あれとも吾記中の趣ゐあつゐらねは爰ゐとらを脇起の俳諧一順又探題の發句あり時ゐ酉過る頃喰聲(粉)をへて像前ゐ額つき歸る偖日ことゑ筆をとる事ハ既ゑ十日にゐりを過くといへとも予うおわよをゐ見聞をるありのすさをハいまた四隅の間た十が三ッをも盡

今度の地震山川高低の間高地ハ緩く低地ハ急也其外海山麓市四谷本郷駒込の邊の高地ハ緩みて　御曲輪内小石川下谷浅草本所深川邊急也其間自然の理り有るへし

憂云思ひ出る折焚柴の夕煙りむせふもうれし忘れ形見にといへる古歌によりて題號せられしなるへし

悟一日後見草ハ鶴壽といへる若實より天地地狀を見聞のまゝに識記して鶴岡石見(昭ゐ)の明暦の火災を記前ゐ記しゝ覺書ゐ合册てしゝ名つけし寫本也

さに且ゐをを盡さんと欲して其有やうを彌〻探れハとゝまる所をたゝ烟草一吹のいとまゐ東武五里四方ゑたらさる地をおへて殘さに動揺緩急の際タニ億兆の家室を凌爍破却せしのをゐを異おるハ只火地とおりし有さはと大地の形勢ゑよりて裂けしおとの二ッハゐりおをハこゝゑ簡約して志りうゐと浓とゝめんとにそも〳〵關東ゑ地震のいたくゆりしハ元祿十六年癸未十一月廿二日の夜半ハゐりゐて新井白石先生のをのせらをし折焚柴の記ゑ湯島より小川町丸の内をよし

西御丸の内連家より火起りし事おと見へ又ある書ゐ此時戸障子倒を家は小舟の大波ゑ動くうことく地を割れ砂をもみあけ水を吹出したる所もあり石垣家藏頽れおるは潰れて死人夥しく又所〻毀をたる家より出火ありて且同夜海嘯(ツナミ)の變ありて房總の間人馬多く死し小田原は殊ゑをよく震ひ大浪地を破て三千人死亡せりと見へ又後見草といへる書のおら〳〵を約して記を

天明二年壬寅七月十四日子ノ刻ちかりおゐふりつよかりし人〻を寢入りおをたる頃おれは驚きさをく事おわかたおらす又明る十五日の夕つかさ卒爾ゐゆり出し壁を崩るひ瓦を落しあやしき家おとハ見る間ゑ倒るゝも多かりき明日朝見れハ地を氷の如く裂けつ其中ゑしも小日向の江戸川の岸ハ地三尺計り裂け開きけりほとを經て後ゑ聞けハ相州小田原城の櫓をも

泰平年表ふ文化九年壬申十一月十四日江戸及ひ近國大地震神奈川保戸ケ谷邊殊ニ甚しく民家倒潰と見へたるハ我年十一の時ふてさまゝく覺へたれと世ふ書くいひ傳ふへき大地震ふハあらさりき

覺云五歳頃見まいへる書を見しに上方ニ大地震有しと事を載たりそは寛文六年五月一日より五日迄の内毎日六七度ヅゝ動揺せしとも事長けれハ後ふいとす其書得て見るへし天文の頃より延寶ニ至りて百四十四年の間の事ども何〳〵れとなく〳〵とく集めたる覺書ふして十五卷ある寫本也

しめとして神社佛閣商人の家藏ニ至る迄もへて悉ふきハなかりしよし見へたり此前後ふ御膝本の都會のあたひをいたす其近郊さふ大震ありしを聞さりしの吾おほえて文政二年乙卯六月十二日帝都ふあり又同き十一年戊子十一月十二日越後國長岡邊同十三甲寅七月十二月十六日改元天保二日京師一圓弘化四年乙卯三月廿四日信州善光寺邊嘉永六年癸丑十一月二日豆相二州うこたふの大震又同し七年甲寅十一月四日十二月十五日改元安政五畿内道ふへて其の大地震大海嘯ふと前代未聞と承りしも

江府をさふからゆりしハともつよから紙ハふをけりふけを過しつる況今ハをつゝの大震ふれしこふはたしめて彼のを為こし人の虎ふあひし物かさりをせしふ誠ニあひし人のひさふるにおちおそれておほへて寒夜ふ汗あへりしと聞へし如くむとも我も膽志ゝまり冷たき汗流してさらハ今よりかゝる難を防くへき心術もふくふ

ゝ的ねふりの夜ハ幸ふ風靜ニして火の神ハあらひをふしてをろ人の死亡況をふからしめ浪靜ふしてをさつみの神ハ怒りを鎭めて海嘯の愁をふらしめ又此秋たの(禾四)つをのよく實のり黎民を安穩ふらしむるををて末世といへともふまくも賢況

大神の御德化　將軍家の御威光綿〻密〻として更ふまゝ地底の蒼天とともに動くまし況ゆへしをおほけ的くもおもひたかりて其

御恩澤をかうへふいさゝ況つゝありのまに〳〵書をけて遂ふ筆を机上ふ閣しを十月十三日しくれの雨の板屋をそゝく靜ふるゆふへ南理鬼

詠大震

安政二年十月二夜、怒號震動聲ニ乾坤、屋鳴瓦落鼠肝碎、風裏人聲十字奔、壁上亂如看逆浪、紙窓洞似破心魂、婦人婢女把吾哭、窮意湛如扶渠煩、地妖稍消蘇得思、頻恐天帝地神憤、須臾石火眼前際、有無存亡不可言、忽發火烟横遠近、坐來多少灼都門、賤人傷踵惑阡陌、高貴侯陪依後園、金殿玉樓灰燼趣、市鄙倉廩潰頽痕、火交時鎭雞晨景、拂淚遍看千里原、皇國無雙鳳郭下、江都花麗无量軒、悲哉凌轢一枚紙、此願採毫傳子孫

神無月のはしめ鹿島の隱士蟹眼ぬしを江戸ふ行脚せらるゝをとめを予を破窓の
もとふ一卷の首尾を收む　かおめ
平伏は鷲の羽をけを雀を的　魚念
土凍われしを宵のひと吹　め
いさゝ火の口數殖しを入る月ふ

竹を手に借る瓢ふら〳〵
籠ふ似〳〵掘立小屋ふきり〳〵を
芋雑炊の子沈捜〳〵ぎり

㋮ 遷官の施行囉ひ〳〵錢蒔て
棟木潰れふ柳川の盤
晝の間はつらき踏跛を戀男
鮨喰〳〵とろゝり起を夢
引事ふ折焚柴の物かたり
泥もみあけ〳〵草の入梅冷
笘茸ふ假養の文庫倉
ふた重封〳〵の沽券疵つく
見沈連ゑ歩行姥等の餓鬼呼ハり
拾ひ木はかり積〳〵町風呂
猿若の出來る噂を月と花
日一分手間も樂ふ日永さ

魚め魚め魚め魚め魚め魚め魚め魚め魚め魚め魚め魚め

㊤ 初雷沈誘ふ地震の跡もふ〳〵
御城〳〵かゝる用水ハ澄む
底番の踏ぬきいとゝ裂ヶ草履
みを〳〵風邪ふ毒ふ夜あか〳〵
會席ふ增を倉鷄鍋ふ年くれゑ
質を休みと讀る太筆
所見餅る假宅入りも火の車
迷ひの間夫の魂を呼ぶき
盆ふ豆ふろかすやうふ世也を
鴉ふ外科醫ち露の間沈富む
車前子ふ蟇蘇かゝを二日月
壁さゝ浪と野分もらめく

㊦ 梁うけふ簟筒片とる枕元
ふり空り逃ゑ心中もせを
救はるゝ此身を水の浮油

魚め魚め魚め魚め魚め魚め魚め魚め魚め魚め魚め魚め

野火の香移る春すりの籾
万歳樂の調子長閑き

此ひと卷をおねふりの後十日はかりのあわひ目よふれ耳よふれ〜事ともを窓のをとにありそ志のひ〳〵よ書綴り〜おれはむまをる風のもれたるも戸闕のうちあはぬも後鎖(カケ)のさ〜あひたるも釣匙(カケカヂ)のうけあはぬもいと〳〵多めれとかゝるうきたき天地の災ひふよりそかれも是も事繁き中よ筆をとりそ毀れさるを拾ひ散たる浜聚めそ文のあやめ(飾)も繕ひたにうよりよ成〜これは名ゑけそやぬれ窓の記とに猶ほゝろ靜ある節を得そ清鉦のよく創り御手洗紙のよく押〜張りそ後よ改むゑくゐ舞

城東山人〜ふに

附錄

御曲輪内燒失場所

大手御門向辰之口邊

一酒井雅樂頭殿上中二屋敷(上屋敷西角少〻燒殘り潰こむ)森川出羽守殿(類燒)

八代洲河岸日比谷御門内大名小路

一遠藤但馬守殿(過半燒失)定火消屋敷(不殘類燒)松平相模守殿(北之方長屋類燒玄關前潰)同添屋敷(不殘類燒)本多中務大輔殿(不殘類燒)永井遠江守殿(不殘類燒)

和田倉御門内西丸下邊

一日比谷御門番所(燒失)和田倉御門番所(類燒)松平肥後守殿上中二屋敷(不殘燒失)松平下總守殿同斷内藤紀伊守殿(類燒)松平玄蕃頭殿(少〻燒込)

幸橋御門山下御門幷櫻田邊

一松平肥前守殿(不殘燒失)松平大膳大夫殿(少〻燒込)龜井隱岐守殿(少〻燒込)伊東修理大夫殿(不殘類燒)松平時之助殿(燒失)有馬備後守殿(同斷)丹羽長門守殿(少〻類燒)松平薩摩守殿中屋敷(同斷)北條美濃守殿(長屋向類燒)

御曲輪内燒失場所續

神田橋御門内

一小笠原左京大夫殿(長屋向潰)御疊小屋(不殘潰)酒井左衛門殿(長屋向潰)

辰之口八代洲河岸大名小路數寄屋橋御門内

一阿部伊勢守殿(長屋向潰)林大學頭殿(玄關其外潰)松平阿波守殿中屋敷(所〻潰)松平土佐守殿(中屋敷過半潰)松平主殿頭殿(長屋向過半潰)

今年秋定火消役屋敷十ヶ所之内二ヶ所を廢せり其二ヶ所ハ小川町及四ッ谷御門内也

和田倉御門内西丸下邊

一牧野備前守殿過半潰 酒井右京亮殿同斷 松平伊賀守殿同斷 松平玄蕃頭殿同斷

幸橋御門山下御門内外櫻田邊

一阿部播磨守殿過半潰 朽木近江守殿同斷 御用屋敷同斷 大岡越前守殿同斷 鍋島紀伊守殿同斷 眞山信濃守殿長屋向同斷

小川町 武家方燒失場

四番御火除後ロ分

一松平豐前守殿本鄕丹後守殿塙宗悅菅谷道順曲淵左門神保伯耆守廣瀨辰太郎峯岸正庵北村季元

三番御火除後ロ分

一本多豐後守殿戸田日向守殿鷲澤淡路燒込

一榊原式部大輔殿表門裏猿樂町戸田長門守殿 兩角より北之方一圓

屋敷岡部因幡守殿田中唯一荒井甚之丞寺島他次郎長坂忠次郎間下助太郎佐藤左庵町田孫四郎三宅勝太郎小林權太夫河内正八郎以下表猿樂町西側之分 堀田備中守殿溝口安五郎佐藤金之丞伏屋新助大久保八郎左衛門柘植三藏燒留 依田十之助危く燒殘る ○以下一橋通り東側之分 新見内匠頭本多丹下

青木忠左衛門近藤小六曾我又左衛門荒川常次郎神織部御臺所町角ふて燒留る

一半井出雲守倉橋内記土岐出羽守天野英太郎柳澤八郎左衛門

御臺所町通り

一高井八十次郎本日駕八郎中條中務大輔

雉子橋通り

一一色邦之輔一軒燒

本所深川屋敷燒失場續武家地

一深川相川町續御船手役久保勘次郎組水主組屋敷燒込

一同所續小堀式部下屋敷燒失同所小屋敷燒る

一同所蛤町續竹垣三右衛門御代官所武州久右衛門新田燒込

一同所富吉町淨土宗正源寺同所黑江町一向宗西念寺共不殘燒失

一同所伊勢崎町續久世大和守殿中屋敷潰候迄ゟて燒込不申

一同續松平美濃守殿下屋敷燒込

一同所御船蔵前町寄合織田圖書頭屋敷不殘燒失
一同所御船蔵前町續小普請組新見豐前守支配日向主殿不殘燒失
一同所續眞言宗中養寺燒失同所小屋敷燒失
一同所御小納戸衆長屋主膳屋敷飛火ふて不殘燒失
一同所御書院番一柳播磨守組永井主殿屋敷燒失
一同所御使番林次郎左衛門屋敷不殘燒失
一同所六間堀井上河内守殿中屋敷過半燒失
一同所森下町太田摂津守殿西裏長屋燒失
一同續小笠原佐渡守下屋敷過半燒失
一同神明別當天台宗猿江泉養寺ゟ燒込
一本所中之郷竹町松平周防守殿下屋敷飛火ふて過半燒失
一本所花町續御書院番白須甲斐守組植村帶刀屋敷飛火ニ而燒失
一南本所石原町小普請組諏訪若狭守支配組屋敷燒失

○

一松平肥後守殿持場内海二の御臺場燒失

○

一町屋敷燒失場記中ふ讓て此ふ不記

○

一十月廿二日御觸（天台宗東叡山學頭凌雲院大僧正浄土宗本所回向院古義眞言二本榎高野山學侶方在番西南院同宗麻布白金臺町行人方在番圓滿院新義眞言宗淺草大護院濟家宗品川東海寺曹洞宗貝塚青松寺黄檗宗本所羅漢寺日蓮宗一致派下谷宗延寺同宗勝骨派淺草）慶印寺西本願寺掛所築地輪番與業寺東本願寺掛所淺草輪番遠慶寺時宗淺草日輪寺院代洞雲院今度地震ニ而世上亡死人の人民不少よ〜をおほけおくも聞〜め〜憐を賜ひ右十三ヶ寺におほせそ來月二日大施餓鬼をせ〜めらる

一市中其日稼之をの〳〵町會所（神田新橋）よおねそ追〻御救米下さる、旨依十月廿四日觸示さる

一十一月二日よりうち續き彼の十三ヶ寺の外諸寺院ふそ施餓鬼執行數多有り

一地震の時新吉原町出火ニ依そ五百日之間淺草本所深川之内左之廿五ヶ町ニて假宅稼き致そ〳〵き旨十一月四日被　仰付其町〻

淺草東仲町　同所西仲町　同所花川戸町　同所山之宿町
同所聖天町　同所金龍山下瓦町　同所今戸町　同所山谷町
同所馬道町　同所田町（以上淺草十ヶ所）

通俗に倣ひて日の出日の没をもて晝夜とす初震の後ハ殊に大きゝ書へき紙上の所見あれハ後ふ略ス

深川永代寺門前町　同所永代寺門前仲町　同所松村町　同所常盤町
同所八幡門前續　同所御船蔵前町以上深川九ヶ所
本所松井町　同所入江町　同所八郎兵衛屋敷前長岡町
同所六尺屋敷　同所時の鐘屋敷以上本所六ヶ所　惣合テ廿五ヶ所也

一ある候よゝ大震の後度々の動搖大小を量りて毬圖ふ作らしめ〜其有やう但白毬ハ晝黑毬ハ夜也

十月二日●四時●四半●九半●八時●七時●同●同●七半●同三日○九時○七時●五時●四時●同
四日○八半○七過●九半●九半過●八過五日○六時○八時●六半●九時●九半●八過●七時●七過六日○六時○四
○七時●九時●八時●七半七日○四時○七時●六過●五過●九八日○七半●六過●九半●七過九日○五過●七
十日○六過●同十一日○八時●四過●九半十二日○八半十三日○五半●四過十四日○四過十七日
○八半●四過●八時十八日今夜雷雨十九日●六過●四時廿日●八半過廿一日○六時○五時廿二日○五半
廿三日無廿四日●五半廿五日○七過廿六日○七過●八過廿七日○九過廿八日●四時廿九日晦日也●
九時

十月總計八十度晝二十八度夜五十二度也以下略

右家不連万戸迺奇一卷借鈔待賈堂自筆本流覽遂一校以爲帳秘云

安政二年乙卯季冬　水上德正

安政三丙辰年季秋望書寫畢　貞明

（此一册堀口貞明ノ遺書中ヨリ得タリ貞明博聞ニシテ書書見ル可キモノ多シ）

京大坂名古屋町數人口戸數等

京都

寛文五年乙巳八月改
町數八百五十二町　人口三十五万二千三百四十四人
延寶九年辛酉九月改
町數千八百五十二町　戸數四万七千軒
人口五十七万七千五百四十八人

大坂

寛文五年乙巳八月改

町數五百四十九町

内

二百四十七町　北組

二百四十一町　南組

六十一町　天滿組

人口二十六万八千七百六十人

内

男十四万千百三十五人

女十二万七千六百二十五人

延寶九年辛酉九月改

町數五百三十六町

戸數壹万七千百八十一軒

寺數四百二十六ヶ寺

酒家二千二百十八軒

橋百八ヶ所

名古屋

元禄五年壬申九月改（壷尻）

尾州名古屋城下市井

戸數六千六十二軒

人口六万三千七百三十四人

長崎明細記

長崎總町數八拾町

此坪數貳拾五万坪

但東西新大工町より大波戸迄　十五町四十間程

南北本石灰町より西上町迄　八町五十間程

此譯

貳拾六町　内町之分　地子免許

五拾壹町　外町　地子上納
三町　出島町　丸山町　寄合町　地子上納
外町分〆五拾四町
此地子銀六拾五貫七百五拾目餘
内
五拾貫九拾目　市中地子
但表間口壹間奥入町並ニ而八匁四分七厘餘より五分五厘迄所ニより高下有之
拾五貫六百六拾目餘築地ヶ所除懸造踏出地等地子
但總坪數壹万六千八百八拾六坪餘壹坪ニ付貳匁四分餘より五分迄所ニより高下有之
外坪數四千八百四拾坪　除地
是ゝ御代官屋敷幷町年寄役宅四ヶ所之地面地子無之
銅座跡竪八十七間横四十五間
此坪數三千貳百六拾九坪六合
此地子銀貳貫五百五拾五匁餘

是ゝ享保九辰年新御築地銅座相建元文三午年相止但地子一坪ニ付壹匁より五分迄相納外町並之御用向ハ不相勤乙名加役ニ而向町相達
寛文十一亥年元井上筑後守屋敷跡奉行屋敷ニ被仰付牛込忠左衛門在勤之節天草殿家を以作事有之
立山役所　三千貳百三拾九坪
建家坪　八百貳拾五坪餘
寛永十年今之地面ニ建
西役所　千六百七拾九坪
建家坪　五百四拾七坪餘
岩原屋敷　八百六拾三坪
御用物藏　御代官屋敷内
御武具藏　八百屋町　六拾坪
御船藏　千九拾坪
鹽硝藏　貳百六拾四坪
長崎會所　百五拾坪
同向會所　九千三百七拾三坪餘
唐人屋敷

新地蔵所　四軒
御米蔵

南瀬崎御米蔵二軒　三千五百坪

北瀬崎御米蔵五軒　梅ヶ崎　貳百九拾九坪

本興善町　長崎村之内船津　千五百六拾壹坪

貫銀蔵　唐通事會所　貳百五拾六坪餘

御薬園　長崎村十善寺郷　五百六拾坪

御船頭水主居宅　浦上村馬込郷　貳千三拾三坪

遠見番　唐人番　長屋　長崎村十善寺郷　貳千貳百三拾壹坪

船番長屋　南瀬崎番所　江戸町之分　千百八拾壹坪

町使散使長屋　引地町幷新町使長屋　銅座跡長屋三ヶ所之分　櫻町ヶ所之内　坪數七百四拾四坪餘

牢屋敷

〆

一市中ヶ所三千九百拾四ヶ所貳合餘　但年〻増減有之

此ヶ所割銀五百貳拾四貫五百拾匁餘

一市中竈數九千六百九拾竈

此竈割三百五拾六貫目

一家數壹万千六百五拾四軒

一人數三万四千貳百六拾三人　但右同断

内　壹万六千六百八人　男　壹万七千六百五拾五人　女

市中郷中　但右同断

一寺社山伏八拾七ヶ所

内譯

社九ヶ所

内

一ヶ所　御朱印　諏訪社

三ヶ所　除地　松森　神崎

三ヶ所　御年貢地　惠美須社

貳ヶ所　町ヶ所地

寺拾四ヶ所

内

四ヶ所御朱印地　皓臺寺　大音寺
五ヶ所御免地　願成寺　春德寺　本蓮寺　大德寺
五ヶ所除地　現應寺　延命寺　法永寺
安禪寺　圓福寺　神宮寺
聖德寺　万福寺

寺三拾壹ヶ所
庵　拾五ヶ所
山伏拾八ヶ所　合六拾四ヶ所

内
貳拾三ヶ所　御年貢地
拾三ヶ所　御年貢地町ヶ所地
貳拾ヶ所　町ヶ所地
八ヶ所　境内地

一寺社總人數七百七拾五人
内
三百五拾三人　出家
七拾九人　神主祝社人　山伏薦僧

三百四拾三人　門前男女

一市中諸家屋敷

薩摩　五島　久留米　但町ヶ所之内
唐津　西濱町
柳川　東中町
對馬　浦五島
長門　小倉　本紺屋町
筑前　新町
大村　浦五島町
島原　平戸　佐賀　肥後　西仲町
〃右之分人別不知　大黑町

一船數貳拾九艘
内
鯨船六艘　番船拾艘　波戸場
改船貳艘　船改方

通船壹呼船壹
注進船貳出迎鯨船壹
注進船四
守船壹
鯨船壹

○御代官所　長崎村　拾三郷　浦上村　拾九郷

一總家貳千百五軒
一人別壹万八百五拾貳人
一牛馬三百六拾三匹

○右同斷

一ノ瀨山　上ノ角山　向分山　北瀨崎
本河内　疇頭山より　瀨畑山　稻佐山　迄
一御林七ヶ所

石鍋番所
野母
小瀨戸
湊番所
船頭方總懸

此反別三百拾貳町貳反五畝歩余

松雜木六千七百三拾八本
寶暦十二午年以來追ゝ植付
苗木差木等根付之分
四万貳百七拾五本
內千四百八拾八本　當午年植付
明和二酉年より野路に植付
苗木並實蒔等根付之分
雜木六千八百拾四本

○御預所七ヶ村

一總家數貳千三百八拾六軒
一人別壹万七千六百四拾六人
一馬貳百六拾六匹

○長崎會所一ヶ年分限元拂高
明和八卯年より安永二巳年迄
三ヶ年平均元高

一銀貳万六千貳百貳拾八貫貳百目餘
金ニ〆四拾三万七千百三拾六兩餘　但金壹兩六拾目之積
是者唐紅毛商賣銀白糸代米代其外諸色納取立等之分
右同斷三ヶ年平均拂高
一銀壹万九千九百九拾八貫六百目餘
金ニ〆三拾三万三千三百拾兩餘　但右同斷
是者諸向受用銀助成銀ヶ所竈割被下銀諸向雜用銅俵物代諸取替被下銀並當料其外臨時等之分

○地方納　御代官所貳ヶ所

高四千百六拾八石三升四合
内
貳百貳拾六石六斗九升四合三勺三才
庄屋散使山留棄捐畑使給分幷西泊御番所敷神崎石火矢臺場敷堤荒成御船小屋古來より之荒畑作半毛引穢多屋敷幷御仕置場引

殘高
三千九百四拾壹石三斗九合六勺七才

一米八百拾七石四斗四合九勺　本途見取口米
金ニ〆八百拾七兩壹分余
此所脫落有之
一銀四貫八百七拾五匁　口銀
金ニ〆八拾七兩壹分
畑方本途見取　町屋敷地子
御藏前入用　壁塗荒土運上
唐人屋敷地子　壁上塗土運上
石場運上　所〻築地幷ヶ所除空地築地地子
水車運上
油運上　西坂口空地之地子
網運上　阿蘭陀傳馬船居賃運上
水樋運上

白魚運上　北瀨崎御藏地子
水運上　板稱山地子
鹽濱運上　野地山手役
多葉粉地子　野開見取
市中鄕中船運上　唐船碇銀
材木置場冥加銀　茶錢銀
蠣灰運上　船烟草置場冥加銀
瓦燒竈運上　砂糖冥加銀
鮪油絞冥加銀　酒造醬油造冥加銀
眞木置場冥加銀

三口

金貳千六百五拾兩余

高ニ〆六千六百貳拾五石余

四ッ物成壹石壹兩之積

本高割合高免六ッ三分五厘七毛余

毛付高割合毛付免六ッ七分貳厘三毛余

○御預所七ヶ村

高貳千七百貳拾五石五斗八合四勺

內

六拾五石五斗八升九合壹勺壹才

鄕藏敷　浦見番屋敷　海成土屋敷　池床堤敷

無地高　川欠　山崩引

殘高

貳千六百五拾九石九斗壹升九合貳勺九才

一米千百貳拾六石八斗九升四合　本途見取夫米

金ニ〆千百貳拾六兩三分余

一銀貳拾貫六拾七匁余

金ニ〆三百三拾四兩壹分余　六尺給

本途見取

御傳馬宿
御藏前入用
藁縄代
野路山手役
帆役
鮪油運上
水車運上
酒造油種絞冥加
砂取藥冥加銀
一毛畑
油方運上
林畑運上
鰤漁運上

二口
金千四百六拾壹兩余
高ニ〆三千六百五拾貳石五斗余
四ッ物成壹石壹兩之積
本高ニ割合高免五ッ三分
毛付高ニ割合毛付免五ッ四分九厘貳毛余

御代官所御預所
高合六千八百九拾三石五斗四升貳合余
内
貳百九拾貳石貳斗八升三合余
諸引
残
六千六百壹石貳斗五升八合余
御代官所
御預り所
合金四千百拾壹兩余
高ニ〆壹万貳百七拾七石五斗余
四ッ物成壹石壹兩之積
本高ニ割合高免五ッ九分六厘三毛余
毛付高ニ割合毛付免六ッ貳分貳厘七毛

○會所納之分
一上納金壹万五千兩
是ハ壹万五千兩之内年〻西藏金貳貫七百七匁七分此代り銀凡六拾三貫六百三拾目程
紅毛銀錢九拾七貫目程御用銅地賣銅ニ而三拾万斤程其金ハ會所本途銀より上納ニ相
成ル
一銀三百貫目

金ニ〆五千兩程

一花邊銀錢百貫目

金ニ〆三千五百五拾七兩余

一唐銀三百貫目

金ニ〆壹万百七拾七兩余

寶暦十未年より安永二巳年迄十ヶ年平均壹ヶ年分

一銀八拾四貫三百八拾目余

金ニ〆千四百六兩余

五口

金三万五千百四拾兩余

高ニ〆八万七千八百五拾石六斗余

四ッ物成壹石壹兩之積

御代官所預り所會所

都合金三万九千貳百五拾壹兩余

高ニ〆九万八千百貳拾七石五斗余

右同斷

内

金三万七千七百九拾兩余

高ニ〆九万四千四百七拾五石余

金千四百六拾壹兩余

高ニ〆三千六百五拾貳石五斗余

午七月（安政五年）

御代官所幷會所之分

御預り所の分

此外御役所建造之事御藏内御道具幷鐵炮員數等鹽硝在高御船名寸度等略之

○船數貳百拾四艘

内

三艘

貳百拾壹艘

是者漁獵船肥シ船之類ニ而外船稼無之

但鄉中ニ有之分貳枚帆より四枚帆迄

村用船

運上銀差出候分

○村方鐵炮百五拾四挺

○社數九社

諏訪社　松森社　八幡社

神崎社　水神社　諏訪末社惠美須社

伊勢社　同社八劔社

松森末社
梅園社

○山伏拾八ケ所

寶輪寺　大行寺　快行院　威福寺
萬福院　南光寺　本覺寺　神宮寺
玉泉院　琢正院　如意輪寺　大教院
泉良院　大學院　金藏院　寶泉坊
明王院　松本院

寺數六拾ケ寺　内四十五ケ所寺十五ケ所庵

内譯

禪宗十五ケ寺

晧臺寺　福濟寺　大學寺　興福寺
晧臺寺末 春德寺　同上 德苑寺　崇福寺　聖福寺
眞福寺末 高林寺　同上 妙相寺　禪林寺　永昌寺
眞福寺末 雲龍寺　晧臺寺末 光雲寺　同上 太平寺

淨土宗七ケ寺

大音寺　悟眞寺　淨安寺　大音寺末 法泉寺
三寶寺　聖德寺　龍淵寺

法華宗貳ケ寺

本蓮寺　同上末 長照寺

眞言宗拾壹ケ寺

大德寺　清水寺　萬福寺　延命寺末 聖無勤寺
延命寺末 延命寺末 能仁寺　同上 圓福寺　躰性寺
願成寺　久珠院　春光寺

天台宗三ケ寺

現應寺　安禪寺　安禪寺境内 多聞院

一向宗七ケ寺

正覺寺　源宗寺　光永寺　光源寺
勸善寺　大光寺　西勝寺

庵十五ケ所

興福寺末 永貞院　同寺境内 永福院　福濟寺末 光明院　聖福寺境内 松月庵

福濟寺末 雲鷲庵
福濟寺境内 永聖院
崇福寺境内 廣德院
崇福寺末 祇樹庵
興福寺境内 資福庵
同寺末 寶授庵
崇福寺境内 緑蘿庵
福濟寺境内 興德院
同寺境内 廣福庵
福濟寺境内 大慈院
福濟寺境内 紫雲庵

吹塵錄第三十五冊目錄

各地方之部三

蝦夷

一蝦夷地明細記

雜載之部

一寛文十二年七月 座頭配當場衆會條目
一明和二年十二月 檢校勾當座頭官金之儀ニ付達
一文化十年三月 盲人共檢校支配タルヘキ旨安永之令再達
一總檢校略譜檢校系圖并式
一瞽者之儀取調書
一諸國飲水ノ重量

皇室追加之部

一御所御賄向其外凡取調書 慶應三年三月

一禁裏御撫并御殿等之記 寛文度御造營

各地方之部三

蝦夷地明細記

文政壬午野作戸口表

東地

地名	戸	口	男	女
ヤムクシナイ	百〇七	五百〇四	二百五十一	二百五十三
アブタ	百七十六	八百	四百十一	三百八十九
ウス	百〇三	四百十七	百七十八	二百三十九
エトモ	三十六	百四十三	七十八	六十五
ホロベツ	五十八	二百三十一	百十	百二十一
レヲヲイ	七十二	三百三十二	百五十九	百七十三
ユウフツ	三百十二	千三百十二	六百五十二	六百六十
サル	二百三十二	千二百十五	六百二十七	五百八十八
ニユカフブ	八十一	二百五十八	百八十四	百七十四

シツナイ	百〇四	五百二十三	二百四十一	二百八十二
ミツイレ	五十六	二百二十一	百〇一	百二十
ウラカワ	七十五	三百二十七	百四十六	百八十一
シヤマニ	二十三	百三十二	六十一	七十一
ホロイツミ	三十九	百七十三	七十四	九十九
トカチ	百七十一	千〇九十九	五百二十三	五百七十七
クスリ	二百七十四	千三百四十九	六百五十三	六百九十六
アツケシ	百六十六	八百〇四	三百七十九	四百二十五
チモロ	二百五十四	八百九十一	四百四十二	四百四十九
クナシリ	百〇六	三百四十七	百五十九	百八十八
エトロフ	百八十一	八百四十九	四百二十	四百二十九

西地

セタナイ	十九	八十六	四十五	四十一
フトロ	十七	六十八	三十二	三十六
クトウ	五	二十五	十一	十四
シマコマキ	三十三	百二十八	六十七	六十一

スツヽ	十五	七十六	四十	三十六
ヲタスツ	四十六	二百〇九	百〇六	百〇三
イソヤ	二十四	八十三	五十二	三十一
ウワナイ	七十一	二百五十一	百二十一	百三十
フルウ	二十九	百二十八	六十六	六十二
シヤコタン	十五	八十二	四十	四十二
ヒクニ	十四	五十四	二十八	二十六
フルヒラ	七十三	三百七十四	二百	百七十四
ヨイチ	八十九	五百六十四	二百八十三	二百八十一
ヲシヨロ	七十一	二百九十二	百四十九	百四十三
タカシマ	四十一	百八十九	百〇三	八十六
ヲタルナイ	四十三	百五十	六十九	八十一
イシカリ	三百三十二	千百五十八	五百九十二	五百六十六
アツタ	十九	七十二	三十五	三十七
ハマヽシケ	八十四	二百九十七	百五十三	百四十四
マシケ	八十五	四百三十七	二百二十七	二百十

安政庚寅野作戸口表

東地

地名	戸	口	男	女
ルヽモツヘ	九十	四百七十二	二百四十四	二百二十八
トマヽイ	四十	二百十一	百〇八	百〇三
テレホ	七十	四百十八	二百十五	二百〇三
リイレリ	二十	百十六	五十七	五十九
ソウヤ	百四十九	七百十九	三百五十三	三百六十六
モンヘツ	二百八十一	千百三十六	五百三十九	五百九十七
レヤリ	三百十六	千三百二十六	六百十二	七百十四
北蝦夷	三百五十七	二千五百七十一	千二百〇八	千三百六十三
ヤムクレナイ	八十	三百七十四	二百十	百六十四
アプタ	百六十四	六百〇六	三百二十四	二百七十七
ウス	九十	四百六十	二百四十三	二百十七
エトモ	四十	二百五十六	百二十二	百三十四
ホロベツ	五十	二百五十七	百十七	百四十

地名	戸	口	男	女
シラヲイ	八十	三百九十九	二百	百九十九
ユウフツ	二百三十八	千百七十八	五百九十六	五百八十二
サル	二百十九	千百二十四	五百六十	五百六十四
ニイカップ	九十	三百八十六	百八十九	百九十七
シツナイ	百二十七	六百四十四	三百〇二	三百四十二
ミツイシ	四十九	二百二十一	百十七	百〇四
ウラカハ	八十八	四百四十一	二百二十八	二百十三
シヤマニ	二十八	百七十四	八十八	八十六
ホロイツミ	二十八	百十五	六十六	四十九
トカチ	百九十五	千百七十八	五百七十七	六百〇一
クスリ	二百五十二	千二百九十八	六百四十四	六百五十四
アツケシ	五十三	二百十七	百〇一	百十六
チモロ	百四十二	五百八十一	二百九十七	二百八十四
クナシリ	三十七	九十九	五十五	四十
エトロフ				

西地

乙部村	三百二十二	千四百三十八七百五十七	六百八十一	小茂内村	六	二百五十六百三十五	百二十一	三ツ谷村	六十二	三百十百六十二	百四十八	突大茂内村	八十八	四百〇五	二百二十九	蚊柱村	八十一	四百二十五二百二十九	百九十六	相沼内村	百六十二	七百四百〇六	二百九十四	泊川村	二百〇六	千百四十六六百二十一	五百二十五	鮫石村	三百二十二	千六百七十二八百七十九	七百九十三	クトウ	三	十	七
フトロ	十	八七十三三十九	三十四	セタナイ	十	八七十一三十九	三十二	シマコマキ	十	一三十四二十五	九	スツ	十	六六十三三十六	二十七	ヲタスツ	十	五五十四三十四	二十十	イソヤ	五	十七十一六	イワナイ	二十六	五五十六三十七	十十九									
フルウ	十	八七十五三十五	四十十	レヤコタン	十	七七十七四十四	三十三	ヒクニ	七	十四十二二	十六百二十五	フルヒラ	五十四	二百四十一百十六	百二十五	ヨイチ	七十九	四百九十三二百五十八二百三十五	百二十三	ヨシヨロ	三十	百二十五六十二六十三	百	タカシマ	十九	七十一四十十一三十	十	ヲタルナイ	二十六	百〇二五十五四十七	百	イシカリ	百六十五	六百七十三十五百二十五三百四十五	十
アツタ	九	四十一二十二十九	十	ハマヽシケ	五十三	百百〇五九十五	二	マレケ	三十七	百三十六八十五五十一	十	ルヽセツヘ	六十二	百十一百〇五百〇六	十	トマヽイ	二十	百〇九五十八五十一	十	テシホ	四十四	二百〇三百〇六九十七	十	リイシリ	九	三十七十五二十二									

レフンシリ	十		二	十七	十五
ソウヤ	百二十八	五百八十五	二百八十七	二百九十八	
レヤリ	百七十三	七百十七	三百五十	三百六十七	
北蝦夷	三百七十三	二千六百六十九	千三百	千三百六十九	
モンヘツ	百四十五	六百九十七	三百四十一	三百五十六	
島ヤンケシリ	十	四十三	二十五	十八	
除八村 通計	千六百	七千九百二十三	三千九百八十七	三千九百三十五	

○按西掌記　戸別人口ハ表ト大抵同シ故ニ略之

乙部村　無高　海舟

○船百廿三○馬八十三○神祠一、八幡宮工藤播磨○佛刹四、禪宗長德寺、淨土宗西念寺、同釋迦堂、淨土眞宗專念寺

○産物鯡、鮑、煎海鼠、烏賊、昆布

小茂内村　同　從乙部一里○四町

○船四十三○馬六十一○産物鯡、鮑、煎海鼠、烏賊、鱈、昆布

突荷村　同　附大茂内村　從小茂内村廿五町三十六間

○船五十七○馬四十七○佛刹一、淨土宗清順庵○産物同上

三ッ谷村　同　從突荷村廿七町三十間

○船五十五○馬十一○牛九○産物同上

蚊柱村　同　從三ッ谷村卅五町廿九間

○船七十三○馬十八○産物鯡、鮑、鱈、昆布

相沼内村　同　從蚊柱村一里○三町

○船百三十二○馬七十一○佛刹二、淨土宗阿彌陀堂、同眞言宗專念寺○産物鯡、鮑、煎海鼠、鱈、烏賊、昆布

泊川村　同　從相沼村十八町

○船二百○六○馬六十四○産物鯡、鮑、煎海鼠

熊石村　同　以上稱江指在八村、從泊川村一里十町○四十間

○番所一百四坪五合○船二百八十二○馬五十七○佛刹三、禪宗門昌庵、淨土宗勢至、同眞宗妙選寺○産物鯡、鮑、煎海鼠、昆布○八村寅秡金三百拾壹兩餘

クトウ　從熊石村四里卅四町五十六間

熊石村界ホンモイ至ホコシ五里十二町半○役土人三○運上家一坪十五○船五十一○産物

鯡、烏賊、鱈、カスヘ、昆布、煎海鼠、鮑、寅出石五十三石三斗○税金六拾兩貳分○受負人松前石橋屋松兵衛

フトロ

ヲウタ界ヲウハナ至東セタナイ界エヘンケノホリ四里三十町○三十間

○役人七○船八十一○産物鯡、鮑、煎海鼠、寅出石四百五十六石三斗○税金五拾兩○請負人松前濱屋三右衛門

セタナイ

西フトロ界エヘンケノホリ至東シマコマキ界モイワ七里四町

○役土人八○運上家一百四十坪○船五十七○産物鯡、飽、煎海鼠、鱈○寅出石九百四十五石○税金六拾五兩○受負人松前古知屋傳十郎

シマコマキ

西セタナイ界モイワ至東スツ、界ホンイカエチシ十一里十二町

○役土人三○運上家一百五十八坪○番家六○小家百○船三百○一○産物鯡、煎海鼠、鮑○寅出石四千六百八十九石○税金貳百兩○請負人松前小川屋九右衛門

スツ、　津輕出張陣屋

西シマコマキ界サメクシナイ至東ヲタスツ界ヲタノシケ四里○三町廿五間

○役土人八○運上家一九十坪○小家百○船二百四十三○産物鮑、鮭、鮮、干鱈、煎海鼠○寅出石三千三百五十八石五斗○税金百兩○受負人松前山崎屋新八

ヲタスツ

西スツ、界ヲタノスケ至東イソヤ界エキナイ一里廿二町四十三間

○役土人五○運上家一二百三十五坪○小家百六十八○船三百三十六○産物鯡、鮑、鮭、煎海鼠、昆布○寅出石千七百六十五石九斗○税金貳百拾兩○請負人松前枡屋榮太郎

イソヤ

西ヲタスツ界ユキナイ至東イワナイ界アフシタ二里廿町四十三間

○運上家一九十六坪○小家九十五○船二百九十一○産物鯡、鮑、煎海鼠、鮮、鮭、鱈、昆布○寅出石千八百六十六石五斗○税金貳百貳拾兩貳分○請負人同上

イワナイ

西イソヤ界アフシタ至東フルウ界ムイノトマリ川六里十六町五十間

○役土人十五○運上家一百十三坪七合○小家二百四十一○船五百四十三○産物鯡、鱈、煎海鼠、飽、鮭、鮮、昆布○寅出石七千五百十六石五斗○税金五百拾五兩○請負人松前仙北屋仁左

衛門

フルウ

西イワナイ界シユヲマナイ至東シヤコタン界ノナマヘ七里十四町

○役土人十二○運上家一百五十坪○小家九十六○船二百廿四○産物鯡、鮑、煎海鼠、鱈、鮭、鮮

○寅出石五千八百三十四石四斗○税金百九拾七兩○請負人松前島屋新右衛門

シヤコタン

西フルウ界ノナマヘ至東ヒクニ界シニケシヨラウス六里廿四町三十七間

○役土人十四○運上家一八十七坪五合○小家六十一○船二百四十三○産物鯡、煎海鼠、鮑、鱈、シ

コタン竹○寅出石三千八百六十二石○税金貳百拾九兩○請負人同岩田屋金藏

ピクニ

西シヤコタン界シユケシヨラウス至東フルヒラ界ホロキナウシ三里十二町

○役土人三○運上家一六十三坪餘○小家卅八○船百五十六○産物鯡、鮑、煎海鼠、鱈、鮮○寅出

石三千七百六十二石八斗○税金貳百拾五兩○同

フルヒラ

西ヒクニ界ホロキナウシ至東ヨイチ界チヤヲツナイ二里廿町

○役土人廿二○運上家一十二百五十二坪○小家九十四○船二百七十二○産物鯡、鮑、煎海鼠、鮭、鮭、

鱈、鮮○寅出石三千六百五十九石○税金三百八拾九兩貳分○同同岡田

ヨイチ

西フルヒラ界チヤツナイ至東ヲシヨロ界フンコヘ崎四里十八町

○役土人廿八○運上家二上七十坪下百七十六坪○小家六十○船三百十五○産物鯡、鮑、煎海鼠、鮭、

鱈、鮮、鮭○寅出石五千○六十二石○同同竹屋長右衛門

ヲシヨロ

西ヨイチ界フンコヘ崎至東タカシマ界ホクシヤタウシナイ二里十六町廿間餘○役土人

十二○運上家一百四十九坪半○小家八十七○番家四○藏十三○小家一○船二百三十九○産

物鯡、煎海鼠、鮑○寅出石四千百六十七石四斗○税金三百貳拾七兩○同同西川德兵衛

タカシマ

西ヲシヨロ界ホクシヤタウシナイ至東ヲタルナイ界ウコハフ川二里○七町

○役土人四○運上家一百七十八坪半○小家八十二○番家二○藏二十○小家二○船二百○六○

産物鯡、鮑、煎海鼠、鮭○寅出石三千二百十五石○税金三百五拾兩○同同

ヲタルナイ

西タカシマ界ウコハッ川至東イシカリ界ヲタルナイ川四里三十二町

○役土人四〇運上家一百九十二坪〇小家二百五十二〇番家五〇小家四〇廊家五〇藏二十一

○船七百二十四〇産物鯡、煎海鼠、鮭、昆布〇寅出石二万四千〇七石三斗〇税金五百四拾

七兩壹分〇同同岡田半兵衛

イシカリ

西ヲタルナイ界ヲタルナイ川至東アッタ界シュッフ四里半、當所元小家至東地ユウフ

ッ會所三十二里

○役土人廿九〇勤番所一百〇四坪〇運上家一二百卅二坪七合餘〇番屋二〇船百廿〇産物鮭、鱒〇寅出

石五千八百十三石〇税金千〇三拾九兩壹分〇同同阿部屋傳二郎

アッタ

西イシカリ界シュッフ至東ハマ、シケ界ユキヒル六里十八町

○役土人三〇運上家一百九十二坪餘〇通行家二〇番屋二〇畫所一〇小家十二〇藏廿九〇船百

五十九〇産物鯡、煎海鼠、鮭〇寅出石四千八百〇五石〇税金三百四拾兩〇同同濱屋與三

右衛門

ハマ、シケ

西アッタ界コキヒル至東マシケ界ヲフイ七里八町

○役土人九〇運上家一百坪七合餘〇番屋一〇小家七〇藏十〇船八十一〇産物鯡、鮑、煎海鼠、

鮭〇寅出石千三百三十七石〇税金貳百六拾七兩〇同同伊達林右衛門

マシケ

西ハマ、シケ界ヲフイ至東ル、モッヘ界アフシラリ八里十三町

○役土人七〇運上家一百三十五坪〇通行家一七十七坪〇小家二十三〇藏九十五〇船八十九〇産

物鯡、煎海鼠、鮑、鮭〇寅出石一万五千二百六十二石三斗〇税金千三百五拾兩〇同同

ル、モッヘ

西マシケ界アフシラリ至東トマ、イ界チヤシュンナイ九里十七町

○役土人十二〇運上家一二百八十二坪七合餘〇小家四十〇藏六〇通行家八十坪〇畫所三〇番家

一〇廊家二〇小家五〇藏四十六〇馬三十〇船九十〇産物鯡、鮭、煎海鼠、昆布〇寅出石五

千〇〇四石六斗〇税金千〇四拾五兩トマ、イ共〇同同栖原六右衛門

トマ、イ

西ル、モッヘ界チヤシュンナイ至東テシホ界ヲタコシヘッ十三里十二町

○役土人六〇運上家一百〇四坪〇通行家一〇番家一〇小家廿五〇藏廿八〇砲臺二〇馬廿七

○船三十七○産物鯡、鮭、鮑、昆布○寅出石ルヽモ〳〵合○税金上同○同

テシホ

西トマヽイ界ヲタコシヘツ至東ソウヤ界ヱキコマナイ十五里廿一町

○役土人八○運上家一百四十四坪○通行家二○小家十二○藏八○船廿四○馬二ー二○産物

鯡、鱒、鮑、昆布○寅出石三百五十六石六斗但ヤンケシリ共○税金五百廿七兩○同同

附ヤンケシリ島

周廻二里廿六町卅六間○至テウレ島一里○トマヽイ六里○テシホ十九里

同テウレ島

周廻二里廿三町四十九間○至トマヽイ七里○テシホ廿里○兩島合船廿七

ソウヤ

西テシホ界ヱキコマナイ至東モンヘツ界モイツ十六里七町三十五間○クシヤンル越山

道十三里○三町五十三間○西ソウヤ運上家至東シヤリ界モイワ六十六里十三町

○役土人十○運上家一百五十七坪餘○勤番所一二百五十五坪○通行家十六○番家六○砲臺一○小家

五○藏七十六○船百九十九但渡船二○馬六十八○産物鯡、鮭、鱒、煎海鼠、雜魚○寅出石二

千六百九十石○税金六百兩ソウヤシヤリ○同同藤の喜兵衛

リ―シリ「ソ―ヤ持」

周廻十五里十六町廿七間○周廻十二里○五町四十間

○役土人三○運上家一百九十三坪餘番家一○藏七十○船七○産物鯡、鱈、鮑、煎海鼠、昆布○寅出

石三千○三十四石○税金三百五拾兩リイシリレブンシリ○同同

周廻十六里○一町廿四間○周廻十一里三町五間

○役土人二○番家一○小家八○藏廿二○船四十三○産物同上○寅出石五百六十五石○

同同

シヤリ

西モンヘツ界モイワ至東子モロ界シレトコ三十三里○五町餘○山道越西シヤリ運上家

至東クスリ界ケヲカワツカヲイ十二里廿五町

○役土人卅二○運上家一百三十六坪○通行家三○小家八○藏三十六○船百三十二○産物鯡、

鮭、鱈○寅出石千石○同同

北蝦夷從ウウヤ十八里

シラヌシ四十六度五分廿一秒

極高四十五度十分（タンヲモイ）四十六度（フウレヘツ）○役土人總乙名五人脇乙名五人乙名三人小使四人土産取廿八人○運上家一（二百三坪半クシユンコタン）○勤番所一（百五十坪同上）○山丹交易會所一（二百十二坪「レフヌシ」）○砲臺一（「クシユレコタン」）○遠見番所一○通行家七（ルウタカ七十坪○ウルウ七十七坪半○ソヤトマリ百二十二坪半○ンヨニ廿一坪○モエリトマリ二十四坪○トコンホ四十八坪餘○ノメシヤン三十七坪半）○番家廿八○小家三十五○藏百八十五○船二百九十一內渡海船二○産物鯡、鱒○寅出石七千百四十二石○稅金千五百六拾兩○同伊達林右衛門栖原六右衛門

ヲクシリ

全島周廻十七里餘　從クドウ七里餘

○運上家一（五十二坪）○船十九○産物鯡、臙脂、○稅金三拾貳兩○同荒屋新左衛門

○巡東小錄

ヤムクシナイ

南野田追村界ユヲイ至アフタ界シツカリ十二里三十一町十五間

○勤番所一（六十四坪）○會所一（ヤムクシナイ一百三十五坪）（ヲレヤマンヘ八十五坪）○馬百十一○船九十四○産物鯡、鮭、臙脂、○寅出石九百拾七石七斗○稅金貳百三拾兩○請負人伊達林右衛門　栖原六右衛門

アブタ

西ヤムクシナイ界シツカリ至東ウス界ウコションコウシ八里三十四町十七間

○會所一（百七十五坪）○馬六十四○アブタ、ウス牧場、馬六百○三（富川牧百六十七　岡山牧百廿一　平野牧八十五　豐澤牧二百三十）○船百八十五○産物鮭、鰯、煎海鼠、昆布、海苔、臙脂、臙脂○寅出石三百七十二石七斗○稅金七拾五兩○同岩田屋金藏和田屋茂兵衛

ウス

西アブタ界ウコションコウシ至東エトモ界チマヱヘツ五里十六町廿二間

○會所一（百四十六坪半）○通行家三○佛刹一（善光寺）○馬五十五○船百十八○産物鯡、鮭、鱒、獸皮、臙脂、臙脂○寅出石二百五十七石二斗○稅金百○五兩○同箱館和賀屋宇兵衛

エトモ

西ウス界チマヱヘツ至東チリベツ一里塚二里廿八町五十四間

○勤番所二（モロラン六十二坪餘　ヲエナウシ廿二坪餘）○會所一（百五十六坪餘）○通行家五○砲臺一（ヲエナウシ）○馬七十二○船三十七○産物鯡、鰯、鮭、鱒、鰈、帆立貝、煎海鼠、昆布、布海苔○寅出石百十一石四斗○稅金六拾兩○同惠比須屋半兵衛

ホロベツ

西チリヘツ一里塚至東シラヲイ界フシコベツ四里三十三町廿二間
○會所一百四十七坪○通行家三○船廿三○産物鮭、煎海鼠、布海苔○寅出石百四十石八斗○
税金エトモ、ホロヘツ兩所六拾七兩貳分○同同

シラヲイ

西ホロベツ界フシコヘツ至東ユウフツ界ベッベツ六里廿八町
○會所一二百四十坪五合○通行家四○馬六十九○船四十二○産物鰯、鮭、昆布、鹿皮、○寅出石八
百五十八石八斗○税金百廿五兩○同箱館野口屋又藏

ユウブツ

西シラヲイ界ベッベツ至東サル界フイハフ十三里六町
○勤番所一五十七坪餘○會所二百五十二坪餘○通行家九○砲臺一○牛三十○馬九十三○船百五十
八○産物鮭、鰯、煎海鼠、鹿皮○寅出石五千五百廿七石三斗○税金貳百五拾兩○同松前山
田屋文右衛門

サル

西サル界フイハフ至東ニイカップ界アッベツ七里○會所一百九坪○通行家四○馬八十○
船六十八○産物鰯、煎海鼠、鮮、昆布、鹿皮、厚朴、○寅出石八百六十一石七斗○税金貳百兩

○同同

ニイカップ

西サル界ヤツベツ至東シツナイ界シンマツ三里八町
○會所一百二坪○通行家二○馬七十八○船廿六○産物鮭、鰯、煎海鼠、昆布、鹿皮○寅出石六
百九十二石五斗○税金百五拾兩○同松前濱田屋佐二兵衛

シツナイ

西ニーカップ界シンマツ至東ミツイシ界フツシ四里三十町
○會所一百十九坪○通行家二○馬六十九○船百○二○産物鮭、鰯、煎海鼠、昆布、鹿皮、○寅出
石三千三百六十八石九斗○税金シヤマニ税金中○同松前万屋專右衛門

モツイシ

西シツナイ界フツシ至東ウラカワ界ヲニウシ三里十五町
○會所一八十五坪○通行家二○船四十四○産物鮭、鰯、煎海鼠、昆布、鹿皮、鹿肉○寅出石二千
三百八十三石六斗○税金三百拾兩○同箱館小林重吉

ウラカハ

西ミツイシ界ヲニウシ至東シヤマニ界ウトマンヘツ五里十五町三十間

○會所一百三十六坪半○通行家一○馬六十七○船百十三○産物鮭、鰤、煎海鼠、鱒、昆布、鹿皮、鹿肉○寅出石四千七百九十一石三斗○税金シヤマニ合金○同同万屋專右衛門

シヤマニ

西ウヲカワ界ウトマンベツ至東ホロイツミ界ニカンベツ五里廿八町十六間

○勤番所一八十一坪○會所一百三十八坪○通行家三○馬六十七○船五十五○佛刹等樹院○産物鰤、鮭、煎海鼠、昆布、布海苔、鹿皮○寅出石二千七百八十五石○税金千○四拾八兩壹分永百文レヤマニ、ウラカワ、シツナイ合○同同

ホロイツミ

西シヤマニ界ニカンベツ至東トカヂ界ビタ、マンケ十里十七町廿七間

○會所一二百十坪○通行家六○馬百十五○船九十二○産物鰤、鮭、昆布、布海苔、鹿皮○寅出石七千三百五十二石六斗○税金六百八兩○同箱館福島屋嘉七

トカヂ

南ホロイツミ界ビタ、マンケ至北クスリ界チユクベツ廿四里三十三町廿四間○會所一二百四十坪○通行家十一○馬百六十○船九十四○産物鮭、鰤、鱒、昆布、布海苔、鹿皮○寅出石○四千九百四十四石一斗○税金二百拾兩○同同

クスリ

西トカヂ界チヨクベツ至東アツケシ界モロウシ廿三里三十町四十五間

○會所一百三十六坪半○通行家二○勤番所一八十一坪○馬二百十二○船百四十○産物鯡、鮭、鱒、鰤、鮮、昆布、布海苔、鹿皮○寅出石五千○三十八石○税金五百六拾兩○同松前米屋喜與作

アツケシ

西クスリ界モロウシ至東子モロ界ヲイナウシ十二里廿九町○又至東子モロ界チヨウフシ二十一里廿一町

○勤番所一百五十四坪○會所一二百五十二坪○通行家九○炮臺二○佛刹一國泰寺○馬九十五○船八十○産物鰤、鮭、昆布、鹿皮○寅出石六千七百八十九石五斗○税金六百兩○同松前山田屋文右衛門

子モロ

南アツケシ界チヨブシ北子モロ會所海岸十二里三十四町○南子モロ會所至北シヤリ界シレトコ海岸四十一里廿七町四十間○勤番所一二百十四坪六合餘○會所二百四十四坪五○通行家四○炮臺二○馬六十四○船百七十六○産物鯡、鰤、鮭、鱒、煎海鼠、昆布○寅出石五千三百四十

四石四斗○税金二千五百兩○同松前柏屋喜兵衛
クナシリ
極高
全島周廻八十里餘
○勤番所一百八十坪余○又一百七十六坪○又一四十九坪○會所二百三十五坪餘○砲臺三○馬七○船八十
五、渡海船四○産物鯡、鱒、鮭、○寅出石千百九十八石七斗○税金五百兩○同同
エトロフ
○文化五戊辰二月廿一日差越
一松前居所幷町役所沖ノ口番所且江差箱館へ初而番所營立候年暦之義ゝ享德三年戊八月元
祖信廣當島ゝ渡海仕長禄元年丑五月在上ノ國ゝ居所取建夫より永正十一年三月二代目光
廣上ノ國より松前大館ゝ居所相移夫より慶長五子年慶廣當居所營立仕候分寛永一四年丑三
月廿八日居所火災ニ而舊記類大抵燒失仕候故役所幷番所〻〻等取建候年暦難相分御座候
一西ゝ熊石東ゝ大野を限り夫より東西蝦夷地と唱候基本之義ゝ舊記等も無御座候間相知不
申候
一東蝦夷地進退仕候内エトロフ蝦夷人交易爲介抱別ニ船差立候義ゝ無御座候得共同所幷ク

ナシリ島蝦夷人共アツケシ邊ゝ荷物持參仕介抱品ゝ交易致〻來候且クナシリ蝦夷人共交
易撫育仕候民ハ寳暦四年始而船差立申候
一カブフト島蝦夷人共交易介抱相始番所補理仕候年暦之義古來よりカラフト蝦夷人共ッウ
ヤゝ罷越是迄獻上ニ相成候虫巣玉且錦魚等持參致〻介抱品〻交易仕罷在候處寳延四未年
海鼠引場爲見分家來加藤嘉兵衛上乘申付始而カラフトゝ船差立候得共其後打絶候處同所
蝦夷人共より介抱船差遣吳候樣度〻願御座候付寛政二戌年介抱船差遣候則其節勤番所補
理仕候
右之外ニも蝦夷地場所〻〻交易の最初番所運上屋之始等都而濫觴御尋御座候處前斷之通舊
記燒失仕逸〻難相分御座候得共西蝦夷地テシホ場所慶長七年中ッウヤ貞享年中東蝦夷地ア
ツケシ寛永年中キイタツフ元禄年中ニ打開候段書面御座候ニ付此段申上候以上
松前若狭守家來
新谷六左衛門
南條郡平

辰二月
○文化三寅年○松前之分取調
家數貳千貳拾五軒

内

家中貳百四拾軒

市中千七百六拾壹軒

寺院拾七軒

社家七軒

人數貳千七人

人數五千九百五拾三人

人數百三人

人數五拾六人

町名

傳次澤町　上泊川町　大松前町　唐津内町

いねつぷ町　濱町　横町　中川原町

湯殿澤町　唐津内澤町　馬形町　東仲町

下泊川町　枝ヶ崎町　小松前町　轉變石町

總社家町　袋町　藏町　神明町

西波町　寺町　東町

村名人員原本ニ因テ表ニ成ス

海舟

村名	家數	人別	
根布田村	八軒	二十一	馬四十九程
札前村	十	五十四	馬五十五
赤神村	五	十	馬二十一
雨垂石村	六	二十一	馬三十二
茂草	十	九七十	馬百三十四
清部	四十	一百五十六	馬百二十
寺二 社家一 江良町	八十	三百四十	馬八十
原口	十	一三十	馬一十
船十一 小砂子	十	二六十七	馬一
石崎	四十	八百五十四	
船十 羽根差	七	二十五	
船三十三 鹽吹	四十四軒	百六十五共廿七	馬十六
扇石	十	二四十三	
船十九 水之子	五十一	百八十八共三十四	
寺二 社二 上之國	二百十八	九百四十五	船馬六十四

船五	北村	八十	七	三百二十七	馬四十
船十五	大留	五十	九	二百五十七	
	五勝手	百十一	七軒共十	三百九十一	馬五十
	江差	百扶持人二百廿十九	廿七五	三千二百八十	寺社一五

町名				
寺小屋町	小平次澤	中茂尻	澤茂尻	
濱茂尻	山之上	佃	津花	
姥神	中哥	九艘川	豐部内	
壁坂	諸木石	新	北新	
片原				

右江差之町名

船四十五	泊	二百	四	六百八十二	馬三十九
寺社船四一百	田澤	六十	三	二百二十二	馬六
	乙部	二百六十	十四	八百三十七	馬五十
	伏木戸	二十	八	百	一

	目名	六十	四	二百二十九	
	土橋	四	十	百四十二	
	餓間	六十	一	二百六十五	
	安野呂	五十	五	二百三	
	小黒部	四十	二	百四十六	
	鰊川	四	十	百四十四	
	小茂内	四十	一	百四十二	船九
	大茂内	四十	一	百二十一	寺一
	突荷	二十	二	六十六	船二十三
	三谷	三十	七	八十二	船三
	蚊柱	五十	八	百八十九	船馬三十二
	相沼内	九十	九	三百三十五	船馬七十一五
寺二	泊川	百十	三	四百五十二	船馬百八五
	熊石	百六十	七	百七	船四十八

文化八未年十二月取調○箱館市々并村々

村中	家數	人別	男	女
箱館	七百八十七	三千三百四	千六百廿九	千六百七十五
石崎村	五十	二百四十三	百二十八	百十五
鍵亀澤	三十二	百三十八	七十五	六十三
上湯川	三十八	百七十七	九十三	八十四
下湯川	六十三	二百九十八	百四十四	百五十四
亀田	三十	百三十五	七十七	五十八
鍛治	二十三	百十五	五十五	六十
上山	七十	三百二十八	百七十	百五十八
大川	十九	八十六	四十七	三十九
七重	二十七	百十四	五十七	同上
市ノ渡	五十九	三百六十二	百三十一	同上
大野	八十	三百六十六	二百	百六十六
文月	二十六	百五	五十二	五十三
湯川	三十	百六十五	八十五	八十
有川	九十二	三百九十六	二百十九	百七十七
戸切地	八十一	三百三十三	百七十三	百七十
三ッ谷	八十五	三百八十	百九十七	百八十三
富川	四十二	二百二十一	百二十	百
茂邊地	六十三	三百	百六十七	百三十九
當別	二十八	百二十二	五十八	六十四
三ッ石	十八	八十	四十	同上
釜石	二十	百九	六十三	四十六
泉澤	七十	三百四十五	百九十	百五十五
札苅	六十三	三百八十四	百八十四	百五
喜古内	五十九	二百五十七	百四十五	百十二
尻澤	三十八	百五十四	八十五	六十九

合家數千貳百拾四軒
人別五千五百七拾九人
内男貳千九百五拾五人
女貳千六百貳拾四人

○六ヶ場所村〻家數人別取調

村	家數	人別	男	女
小安	六十五	二百七十五	百四十一	百三十四
戸井	二十一	七十	三十七	三十三
尻岸内	五十	二百十四	百十六	九十八
尾札部	四十四	百六十九	九十九	七十
白尻	三十五	百二十六	七十一	五十五
鹿部	二十三	百六	五十八	四十八
砂原	八十六	三百九十二	二百十七	百七十七
鷲ノ木	五十五	二百二十九	百二十九	百
野田追	三十九	百六十二	八十七	七十五

合家數四百拾八軒
人別千七百三拾九人
内男九百五十五人
女七百八十四人

○文化九年壬申取調

箱館　家數八百四軒　寺院四ヶ寺　社家二軒共

人數三千三百九十二人
内男千六百八十六人
女千七百六人

箱館附村〻

亀田	鍛冶	七重	大野
市渡	文月	湯川	上山
富川	茂邊地	當別	有川
尻澤邊	錢亀澤	札刈	戸切地
上湯野川			三ッ石
			釜石
			喜古内
			汐泊

家數千三百四拾六軒
人數六千七拾七人
内男三千貳百七拾三人
女貳千八百四人

六ヶ場所

小安	尻岸内	白尻	砂原
鹿部	鷲木	野田追	戸井

家數四百貳拾六軒

人數千七百四拾八人
内男九百五拾五人
女七百九拾三人
家數貳千五百七拾六軒
三口總合
人數壹万千貳百拾七人
内男五千九百拾四人
女五千三百三人

箱館寺院

禪宗曹洞高龍寺　　龜田村　藤山城　　淨土宗稱名寺
日蓮宗實行寺　泉澤村　箱館　菊池出雲　　一向宗淨玄寺
禪宗曹洞大泉寺　　有川村　種田豐前

社家

八幡宮　箱館　澤邊主殿
同　湯野川村　中川數馬
同
神明
同
湯倉明神

八幡宮　戸切地村　永井造酒
大山祇命　七重村　菊池越中
天滿宮　茂邊地村　池田賴母

○文化四年丁卯五月十四日松前若狹守家來新井田嘉藤太出ス
享和三亥年
○惣敎納金錢并正納品之覺　文化二丑年調
金七千五百八拾七兩壹分ト
一錢壹万六千九百四拾貳貫百六文
右者西蝦夷地諸運上其外諸役當所納
金七百九拾四兩三分ト
一錢壹万貳百六拾壹貫五百四拾六文
右者江差番所納
二ヶ所金八千三百八拾貳兩
合錢貳万七千貳百三貫六百五拾貳文

此金四千百八拾五兩錢壹貫百五拾貳文

總高

金壹万貳千五百六拾七兩ト錢壹貫百五拾貳文

（文化元子同二丑同三寅三ヶ年之收納高前件ト大抵貳三千兩之增減有之巨細之書付爰ニ

畧ス　海舟）

○丑年家中運上金其外收納金

一惣高金四千六百七拾三兩貳分

錢百四拾貫九百七拾文

內

金四千貳百四拾六兩貳分

錢百四拾貫九百七拾文

金五拾兩　運上金

金六拾貳兩貳分　賄金

錢八百貳拾文

金六兩壹分　差荷物仕切金

金百九拾壹兩　差荷物之內二品拂代

家來上乘金

金七兩　同差荷物代

金三拾兩　同手當金

金八拾兩　ル、モツヘ秋味添船

錢五貫文　增水主二人分

錢貳拾五貫文　鯡取五人分

錢拾貫八百文　村鑑役錢

錢六拾貫文　薪代錢納

以上

○寅年

金五千貳拾九兩壹分

一錢百四拾貫五百四拾文

雜載之部

（巨細書畧之）

近年國〻の諸座頭配當場衆會之刻猥之作法有之旨
公儀迄就御沙汰今度十老對談之上相定條〻

一配當祝儀之事諸事ゝよらす遠國より相越ゝ付而路銀ゝまとね配當を抑留少之時と雜言惡口を吐配當をあゝき甚及狼籍之由其聞へ有之曲事之至也向後と面〻住所より一日路之外と他國へ不可參住國之内と一日路之外も可免之縱一國之内さりといふ共二日路も在之所にと一切不可罷越但面〻所令居住之國主郡主にと遠路さりといふとも可參事

一配當前〻より如有來可取之其例無之と一圓不取之事

一配當ゝ參會之刻裝束を正敷〜奕法仕るへ〜たとひ配當出之人僻事を申懸仕懸るといふとも神妙ゝ挨拶いさ〜是非堪忍難成義これあるゝおねるへハ十老に可訴之爲十老可及詮議事

一配當場に打懸初心等も參りはとふによりて日〻ゝ申散あやまりおきものも蒙利之間自今以後と打懸初心等も其宿〻ゝ指置頭分之座頭五三人も罷出其斷を盡とさき之人可有承引之間大勢參はとふ儀可爲無用事

一惣〜て當道之儀と平家爲家藝之處其道欲う〜おひ配當を專ゝ仕儀不屆之至おり極老之をのハ各別わうぢもの共向後と平家并家業を勵連〻配當之道と可相止事

右條〻うさく可守之も〜相背と或根元を切或死罪ゝ可行之者也

寛文十二壬子年七月十一日

柳川檢校應一
八橋檢校城淡
香坂檢校露一
小瀨檢校宜一
岩船檢校城泉
小川檢校滿一
今井檢校席一
三老 高田檢校及一
二老 澁谷檢校忠一
職 並川檢校安一

（右令條記ゝよる）

明和二乙酉年十二月廿六日

檢校勾當其外座頭共官金之義ヲ申立高利ニ而世上に金子貸出し滯候節と座頭共大勢差遣し武家と玄關等に相詰罷在高聲ニ而雜言申或と晝夜詰切罷在彼是我儘成躰ニ而致催促候者も有之由相聞候勿論借金催促之義ハ其時宜ゝ寄何共勝手次第之事ニ候へ共右之致方と借主へ恥辱をあたへ候而爲致返金候樣ニ仕候事ニ候得と催促之筋ニと無之候右之通過分之高利ニ而取引仕候故外〻よりも座頭に金子預ヶ貸出候もの多有之趣ニ相聞候過分之高利又と法外之催促致し候義ニ付奉行所吟味ニ相成咎可申付義も有之候得共兎角不相止其上借主心得トハ乍申返金相滯候節と法外之催促可致旨證文爲認取置且又利金之儀證文ニと通例之利金等相認メ實と高利ニ取引仕其外ニも禮金ト名付用立候金子之内ニ而引取候義共有之候旨相聞に不埒之至ニ候以來過分之高利ニ而貸出候義致間敷候勿論借金催促仕候儀と勝手次第之事ニ候へ共玄關等其外催促之者罷越間敷候雜言等申法外之義致間敷候若相背候ハゝ吟味之上急度可申付候但座頭共所持之金子と官金ニ仕候而所〻にかし出し候義ハ尤之事ニ候へ共他之者之金子を預り置自分金子之由申貸出候儀と仕間敷儀ニ候間以來右躰之義仕間敷候

右之通町中に可觸知もの也

右之趣町奉行より相觸候間向〻に寄〻可被相達候

十二月

文化十癸酉年三月廿二日

大目付に

盲人共之義渡世之藝無之親元ニ罷在又と武家に被抱候而他之稼致し候類と檢校之支配あるへき旨安永五申年相觸候處近來座中不入盲人多醫業賣卜等渡世ニ致し候分ハ座中之支配不受おと心得違候も有之趣ニ相聞候惣而百姓町人之悴と不及申あとい武家陪臣之子弟ニ而も市中住居之分ハ主人屋敷内ニ罷在候共琴三味線針治導引等之藝業ニ携候ものハ檢校之支配可受筈之事候間其旨相心得尤向後年〻人別改之節町方と其所之町役人在方と名主組頭等心を付檢校支配師匠之名前等相改其段人別帳にも書記し置可申候

右之通可被相觸候

酉三月

總檢校畧譜
檢校系圖并式

總檢校畧譜

一光孝天皇之御宇仁和二丙午二月十七日初而當道座中に檢校勾當二官を
勅許

一職明石惣檢校覺一
後醍醐天皇之御宇ニ右檢校に初而惣檢校之宣旨を給る職成之年月不知

一杉山惣檢校和一　依
上意元祿五申年五月江戸ニ惣檢校被　仰付候此時より京都ニ而も職何〻檢校と斗唱候」

一三島惣檢校安一　元祿七戌年六月杉山跡惣檢校被　仰付寶永六丑年十一月迄相勤申候

一島浦惣檢校益一　寶永六丑年十一月三島跡惣檢校被　仰付享保十九寅年十月迄相勤候此
時如元京都ニ惣檢校被　仰付候以後京都職も代〻惣檢校ニ御座候其節之職も若松惣檢校
ニ御座候

但此時ゟ江戸檢校之座上を惣錄と相唱候樣被　仰付候則其節之座上も島崎檢校ゟ〈一

同人惣錄相勤申候

一白石檢校元文五申年三月ゟ惣錄相勤同人役中寛保元酉年初而惣錄屋敷に役所相建テ引移
候後代〻惣錄右役所に引移相勤申候

一惣錄藤谷ゟ以後代〻惣錄名前左ニ記

明和三戌九月より　雨谷
同　四亥三月より　山口
同　年十二月より　若村
同　九辰正月より　菊川
安永三午十月より　稲村
同　四未十月より　長谷富
同　六酉九月より　豐濼

同　年十一月より　三　澤
同　九子三月より　古谷津
同　年六月より　栗　原
同　年九月より　六　浦
同　十二月より　太　田
天明元丑四月より　重　田
同　年七月より　溜　川
同　年十二月より　木　村
同　二寅六月より　中　浦

同　三卯三月より　水　本
同　年九月より　清　澤
同　六午十月より　豐　川
同　七未三月より　龜　田
同　年十一月より　福　島
同　八申三月より　豐　藤
同　年十月より　眞　田
寛政元酉六月より　金　井
同　二戌三月より　野々村

同　年七月より
伊　藤
同　四子十月より
松　村
同　五丑八月より
加　藤
同　六寅三月より
小名木
同　年七月より
菊　崎
同　七卯四月より
大　竹
同　八辰三月より
内　山
同　十午六月より
福　田
同　年十二月より
北　尾

同十一未十二月より
竹　山
享和元酉四月より
北　村
同　年十二月より
鴨　田
同　二戌五月より
高　松
同　年十一月より
島　浪
同　三亥六月より
塙
文化二丑六月より
芝　原
同　六巳二月より
天　津
同　年十二月より
大　場

同　九申六月より　吉川
同十一戌五月より　司馬崎
同十四丑二月より　山田
同　年五月より　野田
文政三辰十月より　豐高
同　四巳正月より　藤植
同　年九月より　青木
同　五午十一月より　淺本
同　九戌七月より　雨富

系圖之事

一光孝天皇之御子雨夜ノ尊ヲ爲元祖相傳仕來レルコト其隱ナシトイヘトモ相傳シ來ル卷物代々ノ　綸旨院宣其外ノ卷物數多應仁亂ヨリ以來度々爲炎上不分明昔ヨリ申傳詞ヲ信シテ故法ト守ル意趣ハ盲人ナレハ書物見ルニヨツテ文書ハ捨ル詞ハクチセストテ傳シヲ守ナルヘシ

一一方ノ最初如都、八坂方ノ最初城玄、中興開山覺都總檢校、在名明石、法名心月本明、其以後ノ職慶都、在名鹽小路、法名聞天道聲、コノ外ノ總檢校不分明、總檢校、在名井口、法名妙觀、職十七歲、仙都總檢校、在名疋田、法名師堂心超、職三年、總都檢校、在名竹永、法名源照、職七歲、命都總檢校、在名川島、職五年、

牧野總檢校、在名竹村、法名乘永、十三年、竺都總檢校、在名官河、法名如練淨江、十七歲、城聞總檢校、在名森澤、法名妙聞、七年、拜都總檢校、在名廣川、法名好玉、職六年、秀都總檢校、在名若山、法名明秀、職十九年、隱居、賀都總檢校、在名山村、法名明意清光、十九年、積都總檢校、在名島、

當役　松黑　同　年十二月より

法名月溪心、一年、城見總檢校、在名金山、法名童譽宗規、一年、天一總檢校、在名松崎、法名清順、職六年、公方一總檢校、在名田寺、法名善秀、職廿五年、喜一總檢校、在名田寺、法名直翁宗適、職十四年、鏡一總檢校、在名藤井、法名慶竺宗禪、職廿歳、圓一總檢校、在名伊豆、法名如心緘江、職九年、城幸總檢校、在名森島、法名雲夢、職一年、城尤總檢校、在名森田、隆岸宗憲、職二年、宇久一總檢校、在名奥田、職九年、依惡人メルニ寛永十一甲戌二月不座

一昔いちの字都の字を書事雖有子細中與一文字に改つると申傳事

一加茂大明神を當道衆中の鎮守と仰ぐ古中今共おこたりなく信〻同詣を加茂ふも子細有歟よつてや御神置を給ひ〻法よ之彼一在所の輩高聲よ經よまに念佛申に勿論うたうたハさ孔時有其折節も當道の語る平家はとかたな〻又始る社參當道ハ火を改を手水をかりよ之加茂の火沈ゆる〻一日一夜ハ加茂よりハ垢離取り身沈清め火沈改め加茂よ一宿する事近頃まてハありき三四十年已來明神定置給ひ〻座頭田荒之其領ふ〻とて近年を一宿終てをこくまゝる事

一守警神ゐかめうやまひ信を〻〻假ふもかろ〻むゑからに二季の塔無懈怠可勤事

一守宮神御影前ふて慎無言を〻〻并諸禮玉門物いふま〻き事

一守宮神かゝらを給ひてより銚子二度相濟迄ハ急用ありといふとも座を立〻からに二獻通

て以後自由とゝの〻ハ左右の隣座よ屆理り罷立本座〻不可罷歸退出を〻〻急病ふらハ職事を以惣檢校二老三老〻理り屆て可歸宅事但三献過ハ自由とゝの〻ゑ〻

一守宮神かけ卷を時ハ職火沈改身沈清む〻き事

一守宮神御仕社ふれハ一代猿ま敷事

一守宮神御影前ふて珠數持事惣檢校二老三老よかきるゑき事

官位ゟ次第

一座頭成四度此内十八キサミ有此極官より名字沈ふのる日命沈ゐるを

一勾當成八度此内卅五きさみあり一度の勾當ハ未四度の裝束ふり二度の勾當より衣白袴を着を

一別當成　三階

一檢校成　一階但官錢未進の輩ハ惣をふとを殘〻置也　以上十六官

法の次第

一總檢校ハ表よ築地をき門作廣間破風かけ狐戸をりをる家よ可住事但借家ハ別段の事

一總檢校末後ふおよひ息未絶内ふ守宮神代〻の日記住物共二老に相渡兩職禮義をふ〻時の二老三老まて可有案内三老より以下の檢校勾當ハ聞付次第新檢校〻樽納一禮可有事

一新二老三老へも樽納可有一禮事
一新總檢校より傳奏へ之禮物座中より出る職ひらきハ總檢校自分可爲操事
一職事を置ハ先品次改侍を求萬事依怙贔負なく萬物押領私曲すへからさる起請文を書せ置
ゑ〜
職事ふゑ相傳ふ〜座中より扶持をと云へとも第一總檢校の儘ふをへき事
一總檢校へ久我殿より案内有て平家御所望の時ハ一方より一人八坂より一人長柄より出仕
裝束ゑき〜やう并兩職事共ふ可出仕時ふ仍て勾當も出仕を裝束ゑき〜やうよおひふ乘
一總檢校ハ山城の國中を不出　上樣ハ各別ナレハ伺公尤と議定〜て伊豆總檢校の時より何
方にも伺公有之事
一退散之時五老迄總檢校座次立送檢校成之刻も可爲同前事
一町家へ總檢校不可出事
一總檢校錢湯に不可入但留風呂ハ不苦事
一總檢校ヨリ〻使者ハ勾當四度タリトイウトモ座を立可送事
一新檢校ノ時總檢校二老三老へ樽納事
一セキ名三代ふ不越名字ハセカス但總檢校之名ハ末代セクヘシ名人之名ニ准事

一總檢校障有レハ職事名代ノ御禮申上事
一職開召物三季次過をゑからを
一弟子同宿其身の弟子成共かうをる事あるゑからに坊守よりほうを〜坊守へ屆ふく〜を
ほうせハ違亂ある〜并同宿離をたる人成共學間所坊主より總檢校へ斷ふき以前ふ弟子
儘ふす〜からさる事
一總檢校たる人ころも斗ふを對面をる次不可改但別當檢校成をの衣袴着を請取ゑ〜寄合之
出仕も同前樽ひらき其外大勢連座之時も衣をかりふを出座可有事
一同宿堅るふ總檢校ふ不對面内の約束ハ不立事
一卯の刻より酉の刻迄法事を〜酉の刻過而法事を但檢校ハ戌亥の時まてほうに
一名代ふて法事の時其使の官位より下官次ほらせは請取ゑ〜使より高官法とを違亂可有事
一打掛之法事切紙ふを遣す使之者ニハ袴可着事但伊豆檢校代より始る
一二忌之塔召物たりとも總檢校障有ハ可有延引事
一二季の塔召物の會所總檢校の宿所より方拾町の外へ不出惣檢校出仕之義式落縁迄與ふ
乘て縁よりて直上座へ付時次不移職事高聲ふ一座へ案内を其節頭人座を立て總檢校の前
へ出を謹て禮ヲス其後二老より次第〻〻末座迄總檢校に可有一禮事

一おきおやうに塔より總檢校より末〻檢校迄裝束素絹練袴帽子勾當ハ色衣沙文ニ而出仕紫を不着但帽子沙文ハ十月朔日より明年四月八日迄可限事

一同召物右之裝束たるゑき事

一法三之塔ニハ總檢校二老三老塔人ハ裝束紫衣ニ而出仕四老より末の檢校ハ黑衣ふゑ出る也但當人所望あれハ總檢校二老三老塔人ハシキシヤウノ裝束四老より末の檢校ハ紫衣ニ而出仕可有事

一同召物右之裝束たるゑき事

一新檢校召物之時總檢校之盃さりとも本座ニ而可呑事

一食物塔より總檢校二老三老に門流頭に樽納但沙門之大山之派ハ上座一派納事

一塔召書ふハ總檢校二老三老へ一座之檢校之別當まて一禮申候寄合禮無事

一積塔一座之儀式上座ニ柳ヲ立此下ふ瓶子大小かさり二重菓子をそ〻柳の枝より末廣の扇子を長柄ノ柄拘ヲかけ一座より疊を敷道より毛氈莚を展ル凉の儀式同〻但楓を立る事

一臨時の塔をそ〻の塔ふ同〻但座敷ハかさらを綱引平家も無おり再塔是より同〻但座敷餝ゑ〻積の經領ハ無おり

一塔の平家より琵琶さに次第先塔人平家始テ其琵琶を大貳事取之總檢校に前より畏て窺指圖請

座其門派頭へ參候テ頭の差圖を請て役者より指を役者坊主持おらハ直より役者指をゝからに其坊主へ指坊主より差圖請取指ゑき事

一をそ〻さりといふとも二季之塔より末〻之者も木綿をかま同布紙子絹ハ連座すへからす布小袖ハ不苦同召物ふハ檢校たるをのも木綿袴不可着足袋をくゑからを長髪ふを不可出事

一二季之塔召物ふ不逢者ハ翌日の寄合より出仕不成事

一見ふを出仕せハ必平家可語事但座敷ハ總檢校と二老と之間におををゑき事

一召物二季の塔十日以前ニ案內有之事

一食物の警固より金棒雜色相添仕事

一塔召物の刻を河原の者砂沈持つを清めはをのくろくをあさへ一座の下膳を可施事付吉書こき入ふも同〻

一寄合之座ふを高雜談并手拍子萬事猥作法をへからすはゝて塔召物の座敷彌儀式實法ゑる ゑき事

一座敷へ仕ふ見性總檢校貳老三老まて二人四老より一人宛仕へき事

一十老精進を窺席より不參の老あらハ官途本の人自身行を窺ゑ〻但且那師匠此三ッの外ハ精進を不可立事

一銚子始ル人ハ一座之檢校不殘勾當之頭一人迄〳〵禮をかをと二番目より隣座四人に禮を申て盃を可通事

一茶の禮下一人あるへき事

一新檢校一度ふ惣とおをといふとも三年〳〵おをすゑからす

一總とお無ハいつまても反對おをとゑからす

一清壽年行事一方より可持事

一總年行事塔成人を指て勤さすへき事

一年行事渡〳〵に未進不可有事

一名代ニ而役ハ可勤名代之名代ハ不成事

一他門之輩指南せハ其坊主のかさより斷有て教ゑ〳〵坊主より理無ふ相對而毛毫平六教事をせす八坂方ハ有無ふ不可習教事

一師弟の中ふ公事有間敷事

一兄弟ともふ一人之弟子に仕間敷事

一弟子同宿たりとも同宿持ま〳〵き事

一地神經讀盲目當道ふ伏〳〵て官位進んをの二度の中老引迄免をへ〳〵大衆分より上ハゆるを

ゑからに但地神をかけを當道計を立を高官をも可免事

一坊主持之檢校勾當四度迄ハ我弟子たりといふとも官途致ハ坊主の帳面に付ゑ〳〵假ふもわか弟子と日記ニ不可付事

一坊主の借物ハ弟子可無事

一山城一國の外へ出を可請暇事

一緣日ふ物詣をへからに但加茂稻荷祇園三社ハ緣日不可憚事

一同宿堅く昔よ作法ふををへ〳〵そくたくニ而かさむゑからに同宿離も惣晴可爲以後事

一官錢取遣之刻むか〳〵より今迄のおとく金銀ふて取ハ其日記よせ本より取へ〳〵式事并只人抔出を私ふ米かおさこなさへの取扱をへからを日記加定可爲六十日

一米座之外之者ふハ預る義有間敷事

一舞〻猿樂等之跡ハ道を捨を二代經〳〵てハゆ〳〵ろうゑからに但ひこより免を

一いや〳〵き筋有者住ゑる家屋敷當道の方に直ふ不可買取家主一人隔不苦

一いや〳〵き筋有者の子養父母を取他名ふ成出家〳〵をる者ふを交合〳〵ても不苦事

一檢校ハ四度の座頭まて下馬を勾當ハ大衆分まてに下馬を其時下官のをのハ笠を取齊秋禮

次おをゑ〳〵

一當道たる人さもかも指ゐからに
一京の口〻へ番を付や衆制不可取事
一官の爲諸旦那より勸進したる輩官位そゝはて有はゝき事
一惡口をへからさる事
一不可狼藉事
一在京したる檢校勾當の家ゐて自身賣買仕間敷事
一科有之不座の輩に不可受合事
一他門之公事不可取持事
一同官たりといふとも長柄乘馬ニ而其門過ハ一禮中可通但長柄檢校ゐ際權勾當以下乘まゝ
一同官たりといふとも座上身うやまひて老たる人をうやまふゐゝ
一同官參會ゐハ頭巾に禮おゝ但樽納時ハ頭巾を可取事
一都鄙にゐらに所の守護地頭へ屆をおゝて一部をかさらハ其所一里四方の當道ハ不可藝事
一總それの仕舞たる檢校之跡式昔ハ三年相違ゐゝといへとも近代ハ一周忌跡立來事但惣そ
ゑをゐ檢校之跡を不立事
一遠國より末〻之當道上下之刻道ニゑ相果さる時ハ目出度をのとゑ清壽院ニ而公物を以其

程〻ゑ志有之事
一遠國より都上りゝて長病たらハ清壽庵之內病屋へ遣ゝ看病をへゝ其をの遠行をハ其學間
所より跡とるへに事
一万事依怙贔負私すへからに僞申間敷事
一土器をゑえさよりいるゝ事
一去たう料千疋ゐるへき事
一渡船賃御免事
一檢校幷清壽庵式事寄宿御免之事

年中儀式

一正月四日二老三老へ之禮大式事二老へ小式事三老へつゐふへき事
一九日てき入總檢校ゐ之禮兩式事共ゑつゐふる二老三老へ之禮かき也小寄合ゑも節句ゑ有
合ハ三老ゑて禮有之事付此日不出仕吉日ゑも不出事
一總檢校公方樣へ之御禮御玄關迄乘物御免成來定日ハ年による事但進物ハ一束一巻
一同十一日吉書此外之寄合ハ總檢校次第に日定事
一同廿九日心月月忌初一ゐゑの總檢校二老三老門派頭時之年行事幷新檢校紫衣ニ而出仕總

檢校不參之時ハ可爲黑衣付り兩式事共ニ出仕總檢校たりといふとも八坂方ハ不出仕事

一二月十六日積塔都鄙之檢校勾當末〻之座頭迄出仕一万卷之心經次讀誦也天下泰平國土安穩三卷數ヲ認禮物添久我殿〳〵納其後頭人延喜聖代を語り六派より五句の平家を勤む島源照兩派ハ輪番ふ勤事

一十七日未明ふ東河原ニ出ス諸當道石塔積是君恩を報〳〵奉らんこの爲おり

一三月廿四日法花經一部書寫〳〵奉兩式事檢校使ふて加茂川に流す　安德天皇之御爲と號す

一稻荷の御輿御出有ス八日目ふ丑日總檢校兩式事共御旅所〳〵參此時上下之宮ふて〳〵座之御神樂田中の御前ニて三座の御神樂有事

一六月十日祇園御旅所參上下之宮ふて十座宛御神樂有之事

一同十五日聞天堂忌師堂妙觀兩流之檢校清壽庵年行事兩式事出仕裝束心月月忌始ふ同〳〵

一同十九日凉出仕已下積塔ふ同〳〵

一同廿日總檢校に僧を供養〳〵提婆品讀誦有之事付り清壽庵之住寺たるへ〳〵

一同日より七月廿日迄江州今津之堂ふて比え山より禮拜講之勤有其時節高座ニ上り平家語る事有比え山よりの案內次第たるゑき事此路〻定ルと也

一同廿九日心月月忌出仕已下月忌始ふ同〳〵

一七月二日八坂忌八坂之檢校并兩式事出仕總檢校たりといふとも一方ハ不出仕此八坂忌ハ向坂檢校依懇望たるふ慶長十八癸丑年伊豆總檢校代より始ル

一同八日施餓鬼出仕之檢校心月忌ニおゐ〳〵

一十一月八日稻荷御火燒

一同月二番之中日守宮神御火燒

一加茂に之田樂是ハ四十年以來始也心外古キ年忌ゑとうの議式開山所ニ勤ム記ニ不及

御公儀に是より上ル

當道之一宗六派之分

一妙觀派師堂派　思付

一妙聞派大山方　是ハ其筋之師兄付但座上ハ師兄ニあらす的傳〳〵來る嫡弟子を師兄といふおり

一源照派戸島方　右同

右六派おゝら四度中老の身と〳〵て祖父坊主之下不附

公事批判之次第

一公事日次定目安ニて公事可聞事

一取立弟子十歳迄ハ其弟子之親次弟あるへ〜十一より其身の心次弟あるへき事
一名式付たると物教たると論有時指南之坊主より可付事
一師匠より傳れる弟子ハ國〻所〻打敷互ニ夫と知りうさる族も筋式尋ね師と〜筋を糺〜て弟子と號に是論有時ハ其所〻當道より尋て證據次第片付へき事
一證人只人と當道二ッをおら〜ハ當道のうさをくかるへ〜證據有と無とくらへハ只人よりも證人あるうさへ可付事
一弟子同宿持さる坊主の跡を弟子取あ〜弟子おき跡ハ同宿知あ〜同宿も無之ものゝ跡を死人の法券可知弟子同宿法券もおきものゝあとハ座上可取事
一思付ハ官位之高下によるへからす下〻之者の如此寄次第ニ弟子とすへき事
一檢校の文よて名を付ある弟子縱直ニ名式付たる人有といふとも文より後おらハ不可用事
一檢校相對ニ而弟子ヲ遣事あり坊主より之檢校又ハ同宿となれさる檢校おりとも寄坊主存生之内ハ成間敷おり尤末〻之者私よて遣物於有之ハ聞付次第其學問所坊主へ可取返事
一不座の檢校若歸座有とも不座の間にちりたる弟子并折物不返事
一他所に紛入をる弟子あらハたとひ年月經たりといふとも聞付次第本筋へ可取返事

一互よ申分有之弟子之官途ニおさへ合あらハ座中よそ一評議有之其後公事不落着先總の預とおうにへき事
一子無檢校の後家よ一周忌迄ノ折物可遣其内緣ニ付よおねそハ不可遣死人の以後日數三十日官途さたき萬後家の儘たるへき事

科行次第

一大科千疋中科五百疋小科三百疋おり勾當ハ檢校の中科ヲ本と〜小科を中と〜小科ハ百疋あるへき事
一請暇落ハ檢校の小科三拾分一あるへき事他准之
一於當道盜人虛官人の女をれうしたる輩ハ裝燒捨或ハ不座或ハこすゑ或ふ〜付或すはき或名目式可切事
一舞〻猿樂等賤き筋目之者之家に至り酒呑たらんするものハ裝束を拔せ可爲不座但自身申顯さハ過失ふ落可有事右之者ともの當道之家へ出入ハ不苦當道よりハ盃をも指あき事
一舞〻猿樂の賤筋有をの〻藝おさる跡不改〜て藝〜たらん當道於在之可爲同前事
一舞〻猿樂類の賤筋有をの〻住さる家屋〜き直ニ買取輩ハ可爲同前事
一二季の塔不動輩右不可爲同前但裝束ハ可爲用捨縱年月經たりといふ共臨時に塔を勤ハ可

有歸座事
一參加をさ孔輩可爲同前事
一他の弟子を乍知紛〳〵とらん輩可爲同前事
一同宿堅るふ於く多く出〳〵ある者同すく取たるものも可爲同前事
一米の取遣六十日の日數ヲ違たらん輩ハ官途の高下によられ大科ニ可落過失ふ落〳〵ありと
いふとも日數延引有へうらに若延引あらハ可爲不座事
一米の取遣法度有ハ大科ふ落〳〵其上ふく十二月出仕可押事但右之法度職事と〳〵て背うハ扶
持可放事
一座中の外へ米預りあらん輩可爲同前事
一狼食たらん輩大科に可落事
一召物職開等に法度背ある輩可爲同前事
一京の口〻へ番を付登衆うとふ輩可爲同前事
一他門の公事取持さる輩可爲同前事
一万事依怙贔負私〳〵ある輩可爲同前事但品ふ寄不座ニも可申付あり
一在京の檢校勾當家よて自身商賣〳〵ある輩と可爲中科事

一出所不慥成琵琶賣買〳〵たる輩可爲同前事
一惡口〳〵たる輩可爲中科返答〳〵たる者可爲小科事
一慮外狼藉之輩ハ時ニより可申付事
一下馬法度輩ハ四度之中老ハ可爲中科四度以下之者ハ一ヶ月裝束可押事但高官人ハ請暇落
ニ准
一塔召物小寄合ふも猥之作法有之輩ハ座ヲ立可申事但上衆ハ請暇落ニ准ス
一塔召物ニ式事火の改身の清め無沙汰成時ハ其日之出仕可押事
一弟子同宿我儘ニ同う〳〵致ハ其學問所坊主より可改事但惣檢校無違亂於請取ハ過失請暇よ
准ス
一當道藝する之時之作法破ラハ同官たらハ一禮申ゐ〳〵高官の人よ裝束可拔事
一官位の爲諸旦那より得勸進出世勢ある輩ハ死罪ニ可行
此外之科ハ時〻之評議次第可申付者也
寛永十一年三月五日

職　小池檢校凡一
二老　天野檢校祐一
三老　小寺檢校温一

東照大權現樣

一座中之公事十老と〜て相捌多分ふ付濟可申事

一理非五人と五人とに聞ハ惣檢校有方へ相付可申事

一誠ひゝさゝ公事次ゝ爲十老御公儀へ伺可落着

一論有弟子初其者之弟子と云て後又口ヲ違一事兩樣ニ申輩ハ裝束次燒捨不座可申付事

一徒黨を結ひ組致輩右可爲同前事

近代

一當道中次離只人ニ成さゝハとて官位の當道ふ慮外致輩可爲成敗事

一十人之内の公事人と談合すへからゝ若此儀相背輩ハ可爲大科事

一衣袴を着する官位の不似合藝すへからす過失右ふ同其身〻〻ゝ旦那の前ハ可爲各別事

木村檢校良一
村田檢校甚一
波田野檢校孝一

新法

一事濟さる公事二度申出輩可爲不座事

一國〻所〻ふゝ他派之者ふよらゝ寄坊主ニ賴事在其寄坊主右の名次付替儀不可有事若相背ハ四度より上を可爲中科四度より以下之者十二月付合次可止事

一我下之者成共法度背たる輩次開隱〜置たる者於有之ハ品ニ寄不座ニも又過失にも可申付事

一當道中次とつれ只人ニ成たる者の名付物教たる弟子ハ何方へ成とも緣次第師可求事

寛永十一年三月五日

職

小池檢校凡一
天野檢校祐一
小寺檢校温一
木村檢校良一
村田檢校甚一
波田野檢校孝一

大猷院樣御書出之覺

一檢校座中近年猥有之付今度被遂御穿鑿奥田菊岡不座ニ被　仰付候畢向後と先年

權現樣被　仰出之旨此度座中より書出候古法之趣彌相守之可致諸沙汰惣檢校非儀有之ゝ相殘九人とゝて言上可仕候九人之者不屆之事有之ゝ惣檢校ハ勿論九人之內よりも可申上惣檢校十老徒黨次結ひ依怙贔負仕座中くるハゝ候者有之に於而ゝ十老之間より言上可仕流罪可被　仰付若十老相隱不申上候者十老共に急度可被處遠島重科者也

寛永十一年四月十一日

一

瞽者之儀取調候處往古ヨリ其種類二アリ一ヲ當道坐法ト稱シ一ヲ盲僧派ト稱ス何レモ僧行ナリ而シテ彼盲僧派ナルモノハ中國ヨリ西國邊ニ少シクアル而已當道坐法之方ハ開祖ヲ法性禪師ト號ス此方ハ宮ニテ被成御坐仁明天皇第四ノ皇子光孝天皇御同胞ノ御弟ナリ御母ハ贈皇太后宮藤原之澤子ナリ宮御年廿九貞觀元年二月ヨリ疾病ニ罹ラセラレ遂ニ御目ヲ失ヒ玉ヒ同年五月上表シテ官ヲ辭シ山科ニ閑居マシ〻數多ノ瞽者ヲ集メ內ニハ大乘道ヲ教ヘ外ニハ技學ヲ授ケ玉ヒ神佛ヲ供養シ人心ノ和スルハ音樂ニ不如トテ最モ此道ヲ示シ玉フ三代實錄曰貞觀元年五月七日壬戌四品守彈正尹兼行常陸大守人康親王出家入道上表云臣入康言臣居雲漢之末才無涓流之效空備簪纓徒榮疾病中謝臣欲遂頑怯於聖日不慮

幽人長住之跡將盡筋骨於明時豈歸眞如寂滅之道然而蒙昧之身荷榮顯鬼必瞰其滿盈尊崇之地處虛羸天宜奪其年算斯乃臣所一寒一暑膚朕作搆患之機或晦或明心肺皆養痾付者臣今年二月熱發甚篤醫藥無所施其方鍼熨遂不通其術即知魂遊岱岳九泉多一死之悲夢上鈞天七日無再生之效綿綴之間纔發此念出家之功德免三途苦仍先請二師已受十戒形猶禿丁服是僧祇豈計非更生之藥起朽質於玄廬無返魂之香招飛精鬼籙此乃如來護念菩薩加持之力矣已得蒙其冥助不得背其染期伏望被陛下之殊私爲梵門之禪侶將使金魚脫佩長褫紫服之粧銀驄伏櫪永罷繡衣之職陛下若遇臣厚者思拾獲其保全若矜臣優者宜斃收其封職不勝荒迷之至謹拜表以聞詔人康親王辭其官爵歸於釋侶宜准國康親王收其品封但本封舊并帳內資人准無品親王例充之人康親王者仁明天皇第四子也承和十五年正月叙四品拜上總大守仁壽二年遷彈正尹齊衡四年兼常陸大守親王自少年時有歸大乘道之意今謝病遂本懷云々

一官ハ貞觀十四年五月五日薨セラル其後仁和二年二月十七日同御門下技學ニ長スル者ニ檢校勾當之二官ヲ詔許アリ其後四條天皇ノ御代十一ケ條之小物成ヲ當道ニ賜ル此十一ケ條ノ小物成不詳之レヲ配分シ來ルヲ以配當ト稱ス中古ヨリ醫業鍼治導引等ヲ技藝ト共ニ行フ後醍醐天皇ノ御代明石檢校角一ニ職之名義并西京ニ於テ一邸ヲ賜ハル此時坐頭衆分打掛等階級定ル其後慶長八年德川氏ヘ將軍

宜下アリシ頃伊豆總檢校ヘ當道坐法之義ハ古來之通リタルヘキ旨命アリ其後元祿年中杉山總檢校ヘ本所一ツ目ニ於テ一邸ヲ賜ヒ總錄邸ト稱ス五代將軍ヨリ辨財天之像ヲ被下彼邸內ニ安置ス同所ニ杉山流鍼治ノ學職ヲ設立アリ諸國之瞽者來テ此術ヲ練磨ス每年兩度開祖之官ヲ始メ歷代檢校ノ祭事ヲ行フ

右總錄ヨリ寺社奉行ヘ書出ス寫也

一彼徒ノ內即今存在スル者ニ問フニ明治四年十一月四日朝政坐法之官職ヲ廢セラルヽ由ニ有之候得共其節之御達振等不詳

一坐中之規則ハ長官之檢校ヲ職檢校ト稱ス官途之先進順序ヲ以職檢校ニ進ム上京シテ檢校邸ニ在職ス但シ十人迄在京ス是ヲ稱シテ職十老ト云然レトモ一老之者重ニ時務ヲ總理ス外九老ハ次ヒ之ニ

一次ヲ總錄檢校ト稱ス其頃江戸本所一ツ目總錄邸ニ罷在關東瞽者之內座中ニ入ル者之取締并官途ニ入ル者之官金等之儀取扱

一總錄之下ニ派頭ト稱スル者六人アリ是ハ坐頭之內六派ニ分ル（其派々之古老ヨリ勘之派名不分）其派々ヨリ官途ニ出ル者之官金等其外事故アル時取扱之

一坐頭之名目ハ一ヲ檢校ト云次ヲ勾當ト云此勾當之內品々名目アリ歌仙勾當百川勾當おく

ゑ勾當懸司勾當立寄勾當大坐勾當權ノ勾當小別當總別當抔品々名目アレトモ皆勾當一列之內ナリ

此分寺社奉行所於テハ上等士分之取扱ヲ以席上椽ヘ差出ス

一次ヲ在名　四度ト云

此分下等士分之取扱ヲ以席下椽ヘ出ス

一次ヲ半打掛　丸打掛　歌仙打掛　衆分ト云此分平民之取扱ヲ以席砂利間ヘ出ス

舊幕之時奉行所ニテ三段ニ席ヲ分ツ上椽ト云ハ椽ヘ疊ヲ敷上中等士分僧侶ヲ爰ニ出ス下椽ト云ハ上椽ヨリ一段下ル足輕等爰ニ出ス　砂利間ハ平民ヲ出ス

右口々名目ヲ附與シ官金之多少ニヨリ其坐ニ進ムナリ

一坐頭ト云モ皆普通ノ人民故戶籍法ニ異義無之然レトモ瞽者ニテ坐頭之門ニ入ル時ハ寺社奉行ニテ取扱來則坐頭ハ醫業鍼治導引音曲等技藝ヲ以渡世致ス者ヲ云渡世之藝無之父兄之許ニアルハ普通ノ瞽者ニテ總錄檢校之關係無之

舊幕定書之內

盲人仕置（遠島追放可申付科ハ親類ヘ預居村之外猥ニ致徘徊間敷旨申渡）

坐頭仕置（總錄ヘ科ノ次第申聞坐法ニ可申付旨申渡）

一官金之儀ハ檢校官　凡千兩程勾當官　凡五百兩程其餘在名四度其外ニ至テ多少之品有之由ニ候得共不詳其官途ニ可昇當人ヨリ官金ヲ出セハ其派頭ヨリ總錄ヘ回シ夫ヨリ京都ヘ相達スル時ハ仕來之入費引去其餘ハ總而全國中之坐頭ヘ割渡ス是ヲ配當金ト唱來ル

一坐頭之儀ニ付舊幕觸書等有之候得共詳細之義ハ書留散失不相分候得共天明安永文化度之觸書寫有之

安永五申年觸書

盲人之義渡世之藝無之親許ニ罷在又ハ武家ニ被抱候而他之稼不致者ハ格別藝業ヲ以市中住居之分幷武家ニ罷在候共他之稼いたし候類ハ檢校之支配たるべき旨

右之趣可被相觸候

文化十酉年觸書

盲人之儀渡世之藝無之親許ニ罷在又ハ武家ニ被抱候而他之稼不致者ハ格別藝業ヲ以市中住居之分幷武家ニ罷在候共他之稼いたし候類ハ檢校之支配たるべき旨安永五申年相觸候處近來座中ニ不入盲人多く醫業賣卜等致渡世候分ハ坐中之支配不請抔心得違モ有之趣ニ相聞候總而百姓町人之悴ハ不及申たとへ武家陪臣之子弟ニ而も市中住居之分幷主人屋敷

内ニ罷在候共琴三味線鍼治導引等之藝業ニ携候ものハ檢校之支配可請筈之事一候間其旨相心得尤向後人別改之節町方ハ其所之町役人在方ハ名主組頭等心ヲ附檢校支配師匠名前等相改其段人別帳ヘ書記置可申候

右之趣可被相觸候

盲僧之義ニ付

天明五巳年觸書

中國西國筋其外是迄青蓮院宮御支配ニ相成候ニ付武家陪臣之悴盲人共盲僧ニ相成右宮御支配ニ候共又ハ鍼治導引等琴三味線等いたし候檢校之支配ニ相成候とも勝手次第たるべく候百姓町人之悴盲人ハ盲僧ニハ不相成候鍼治導引琴三味線等いたし盲僧ニ相成候義ハ決而不相成事ニ候右之外百姓町人之悴盲人ニ而琴三味線鍼治導引等ヲ以渡世不致親之手前ニ罷在候而已之者幷武家ヘ被召抱主人之屋敷又ハ主人之在所ヘ引越他之稼も不致分ハ安永五申年相觸候通制外ゐるべき事

右之趣可被相觸候

右取調候趣舊記等之内より書出候得共詳細之義ハ戊辰之際散失いたし候舊キ書面等相不見候

尤心當り之者へ相尋候得共皆同樣之義ニ而御用ニハ相立申間敷哉ニハ御座候得共心得丈ヲ認取差上候義ニ御座候間御賢覽奉願候也

明治二十年二月

小俣景德

諸國飲水の重量

◎人世日用之飲水ハ尤其良成るものを撰むゝと衛生上最第一之術さり昔時を是等之說如今日精ふ〜て細ふらけり〜も既よ古人諸國水量の比較よ着手せ〜ものあり抑も近來流行病之原因水中之混合物より生ずるもの十ふ〜て三四と聞く今古人の記を採りて爰ふ擧く希くハ今人廣く諸州之水量を測りあハせて其水之良否を驗定せハ衛生上無量之功を奏せむ惜む古人之記載僅少よ〜て數國よ不及事を然れともふれを以擴充せハ將よ其階梯と爲すよ堪ゆへきふらむ歟

諸國水量

江戸 一升量目 下仝

玉川上水　三百七十目
神田上水　仝
三十間堀井戸　三百八十目
牛籠築戸　三百九十目
品川素水　四百目
品川　四百十目
新橋通　四百四十目
糀町邊堀井戸　四百五十目
大傳馬町邊　仝
日本橋通上水　仝
芝增上寺門前　仝
牛籠榎町芳心院内靈龜水　四百五十三匁五分
兩國邊堀井戸　五百目
下谷邊　五百二十目
本所邊堀井戸　仝

浅草邊　全
諸國
下野日光山麓　三百目
京都加茂川　三百二十目
摂州池田川　三百五十目
奥州仙臺柳清水　三百六十目
相州大山　三百七十目
遠州天龍川　三百八十目
武州神奈川臺　全
武州大森村　全
總州利根川　全
武州玉川中央　全
武州井ノ頭流中央　全
武州川崎六郷川　全
相州藤澤　四百目

筑前博多　全
駿遠境大井川　全
伊勢山田　全
奥州白川　全
奥州仙臺　全
房州長拔川　四百十目
美濃大垣　全
尾州名古屋　全
紀州和哥山　全
武州鶴見村　全
相州江島　四百二十目
相州戸塚　全
相州鎌倉　全
野州宇都宮　全
奥州會津　全